科目名	ブライダルコーディネート技能検定 I	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	BIA検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を教授する。							
授業の一般目標	日本のブライダル業界で必要な基礎知識、及びブライダルコーディネー	日本のブライダル業界で必要な基礎知識、及びブライダルコーディネーター業務について学ぶ。						
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	日本のブライダルの歴史、ブライダルビジネスの現状が把握できる							
□ 思考・判断の観点	過去のBIA検定問題に出題されているブライダルの基礎知識を間違い	なく選択することがて	<b>ごきる</b>					
□ 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、各ブライダル業種や関連業種について	「調べ、説明する事だ	ができる					
□ 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる						
□ 技能・表現の観点	観点 前期で学んだ範囲のBIA検定過去問題を解くことができる							
授業計画(全体)								

基本的な知識を修得し応用に発展する

#### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション Lesson1 結婚とは	検定の趣旨・特徴・受験の手続きなど案内 結婚とは	
第2回	Lesson2 ブライダルビジネス	ブライダルビジネスと呼ばれる業種を学ぶ・市場の推移を知る	
第3回	Lesson2 ブライダル業種	結婚式会場・披露宴会場・その他ブライダルビジネスについて	
第4回	Lesson2 ブライダル業界の1年	繁忙期・閑散期・集客のシステムについて	
第5回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習小テストの実施及び解説	
第6回	Lesson3 ブライダルの基礎	見合い・結納について・顔合わせについて	
第7回	企業研究②	新郎新婦の結婚までのスケジュール。検討必要事項及び時期を学ぶ。	
第8回	Lesson3 ブライダルの基礎	様々な挙式①:キリスト教式・シビルマリッジ	
第9回	Lesson3 ブライダルの基礎	様々な挙式①:神前式・仏前式	
第10回	復習テスト	披露宴〜二次会、海外ウェディング、新婚旅行について BIA検定過去問も含めた復習小テストの実施及び解説	
第11回	Lesson4 コーディネーター業務	Lesson1~3の振り返り ブライダルセールスの特徴(商品特徴)	
第12回	Lesson4 コーディネーター業務	セールスと施行、新規から成約までの流れを学ぶ	
第13回	Lesson1~4までの総復習	ブライダル概論及びBIA検定の授業範囲の総復習	
第14回	Lesson1~4までの総復習	ブライダル概論及びBIA検定の授業範囲の総復習	
第15回	期末テスト	1回~14回の内容で期末テスト実施	

## 成績評価方法

		知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		0	0	0		0		40	S(4):90点以上
小テスト		0	0	0		0		20	A(3):80点以上
検定結果		0		0		0		20	B(2):70点以上
授業態度				0	0			20	C(1):60点以上
発表·作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習								評価なし	
出席						欠格条件			
担当教員 國定 章子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/			.jp/voice/kunisada/		

科目名	ブライダルコーディネート技能検定 Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	請義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	BIA検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。							
授業の一般目標	日本のブライダル業界で必要な基礎知識、及びブライダルコーディネー	ター業務について学	<sup>1</sup> ぶ					
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	ブライダルコーディネーターの業務内容を説明する事ができる							
□ 思考・判断の観点	BIA検定問題の基礎知識を間違いなく選択することができ、得た知識を	他の実技授業で活っ	かす事が出来る。					
□ 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、各ブライダル業種や関連業種について	:調べ、説明する事が	ができる					
□態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	BIA検定3級を取得できる							
I STATE OF A ALL S								

基本的な知識を修得し応用に発展する

## 授業計画(授業単位)

0	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	検定試験に関する詳細説明・前期復習・後期授業範囲について学習する	
第2回	Lesson5 打合せ業務	成約から披露宴本番までの打合せの流れについて学習する	
第3回	Lesson6・Lesson8 ブライダルアイテムの選定・当日業務	会場コーディネイト・テーブルプラン・テーブルセッティングついて理解する	
第4回	Lesson6・Lesson7 ブライダルアイテムの選択・手配業務	ペーパーアイテム(招待状・席札など)について発送時期や基本ルールを学習する	
第5回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習テストの実施及び解説	
第6回	Lesson6 ブライダルアイテムの選択	婚礼料理、飲み物、ウェディングケーキについて学習する	
第7回	企業研究②	披露宴の進行、司会や音響の役割、各種演出について理解する。	
第8回	Lesson6 ・Lesson8 ブライダルアイテムの選択・当日業務	披露宴の進行、司会や音響の役割、各種演出について理解する。	
第9回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習テストの実施及び解説	
第10回	Lesson7 手配業務	引出物・引菓子・写真撮影や映像素材の種類などについて学習する	
第11回	Lesson7 手配業務	引出物・引菓子・写真撮影や映像素材の種類などについて学習する	
第12回	BIA検定対策集中授業	過去問題を繰り返し行い、解説。問題対策を行う。	
第13回	BIA検定対策集中授業	過去問題を繰り返し行い、解説。問題対策を行う。	
第14回	総復習	コーディネーター業務の総復習を行い、期末テスト対策を実施。	
第15回	期末テスト	前後期授業で学んだ内容で実施	

# 成績評価方法

		知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		0	0	0		0		50	S(4):90点以上
小テスト		0	0	0		0		20	A(3):80点以上
宿題授業外レ	ポート			0	0			10	B(2):70点以上
授業態度				0	0			20	C(1):60点以上
発表·作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習								評価なし	
出席				0				欠格条件	
担当教員 國定 章子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/			jp/voice/kunisada/		

科目名	全米ブライダルプランナー検定 I	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主に全米ブライダルブランナー検定2級取得を目的とした対策授業。 この授業で使用する教材から日本のブライダル業界の変遷も理解する。また、現在行われいる日本のブライダルでの進行や演出の多くは、欧米のブライダルの 流れを受けている事を理解し、それぞれの演出や進行が持つ歴史や意味についての知識を広げる。								
授業の一般目標	ブライダル業界で必要とされる一般的な知識を習得し、9月に実施される全米ブライダルブランナー検定の2級合格を目指す。								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. ブライダルの歴史、欧米と日本の違いについて説明できる。 2.	ブライダル業界の各	↑領域の概要と課題	<b>運を説明できる</b>					
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた進行や演出を参考に、模擬挙式やリアルウェディンク	の進行を考える事だ	ができる。						
□ 関心・意欲の観点	欧米で行われている演出や進行を実践に活かす事ができる。								
□ 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる								
□ 技能・表現の観点	点 前期で学んだ範囲のBIA検定過去問題を解くことができる								
授業計画(全体)									

# 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考		
第1回	オリエンテーション	検定試験概要説明、授業の進め方について説明。ブライダル用語について認識確認			
第2回		第2章 アメリカンウェディング(ブライダルパーティーなど名称を覚える)			
第3回		第2章 アメリカンウェディング(ギフト・ペーパーアイテムなど名称を覚える)			
第4回	欧米編	第6章 ブライダルコンサルタントとは(米国ウェディングの市場・コンサルタントとしての仕事など)			
第5回		第4章 アメリカンウェディング(セレモニー・3つの宗教・宗派・伝統的な言い伝えなど)			
第6回		第7章 宗教ウェディング(プロテスタント・ローマカトリック・ユダヤ教・非宗教について)			
第7回		第5章 アメリカンウェディング(レセプション 本番)			
第8回	一欧米編 総復習	アメリカンウェディング 総まとめ	<b>1</b>		
第9回	以不相 心设目	アメリカンウェディング 総まとめ	小テスト実施		
第10回		日本の婚礼会場における仕事	The Business of Japanese Weddings		
第11回	日本編	日本の婚礼における関連サービス・主要業者について			
第12回		日本のブライダル市場について	<b>\</b>		
第13回	総復習 期末テスト実施	日本における結婚式の総まとめ 欧米と日本のテキストより出題			
第14回	過去問題 模擬試験(直前対策授業)	ブライダルプランナー検定2級 過去問題演習			
第15回	過去問題 模擬試験(直前対策授業)	ブライダルプランナー検定2級 過去問題演習			

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能•表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0			0		30	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	0	0					20	B(2):70点以上
授業態度			0	0			10	C(1):60点以上
検定試験	0	0					30	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

		1		T					
科目名	全米ブライダルプランナー検定 Ⅱ	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主に全米ブライダルブランナー検定1級取得を目的とした対策授業。 前期に学習した内容を復習し、1級の範囲となるテキスト後半の対策及び、プランナーになった場合を想定した論述形式の問題への対策を行う。								
授業の一般目標	ブライダルプランナ―としての対応力を学び、9月実施の全米ブライダル	プランナー検定1級	取得を目指す。						
受講条件	出席率80%以上が前提となる								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. ブライダルの歴史、欧米と日本の違いについて説明できる。 2.	ブライダル業界の各	↑領域の概要と課題	を説明できる					
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた進行や演出を参考に、さまざまなパターンのゲストへの	の提案を考案できる	0						
□ 関心・意欲の観点	欧米で行われている演出や進行を実践に活かす事ができる。								
□態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる								
□ 技能・表現の観点	全米ブライダルプランナー検定1級を取得できる。論文でプランナーを想定したゲストへの提案ができる。								
授業計画(全体)									

## 授業計画(授業単位)

技术計画(技	<b>本</b> 中位/		
	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	検定試験概要説明、授業の進め方について説明。	
第2回	日本版①	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う	
第3回	日本版②	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う	
第4回	日本版③	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う	
第5回	欧米編①	欧米版テキスト7章~12章を過去問題に添って学ぶ	
第6回	欧米編②	欧米版テキスト7章~12章を過去問題に添って学ぶ	
第7回	企業研究②	1年時に学習した内容の欧米版の総復習を行う	
第8回	欧米編④	1年時に学習した内容の欧米版の総復習を行う	
第9回	記述対策授業	記述問題に対して。いくつかのパターンを学び、プランナーとしての提案を論文にする	
第10回	記述対策授業	記述問題に対して。いくつかのパターンを学び、プランナーとしての提案を論文にする	
第11回	総まとめ	欧米ならではの特徴を総復習(ブライダルハーティ・宗教挙式など)	
第12回	(100 年にり)	日本のブライダルビジネスについて	
第13回	検定直前対策授業	全米ブライダルブランナー検定1級試験 直前対策侵業	
第14回	快吃但削刈來坟来	エヘノソリノルノノノノ 一快た   萩矶歌   巨削対界収末	
第15回	期末テスト実施		

## 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0			0		50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	現代ブライダル総論	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	設時期 後期 教員実務経験対象 -						
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	昨今のブライダル業界において現状を把握し、目指す人材像を明確にする。 ブライダル業界で活躍できる人材を育てるため、マインドを育てさらには基本であるマナーを教授する。 ブライダル業界や企業の将来展望について考えさせ、新たな創造力を養うよう導く。								
授業の一般目標	1年次に習得した専門知識を現代のブライダル業界へと発展させ現場で対応できる深い学びを得る。 将来への目標を持ち、業界人として基本的な思考も持って行動できる人材を目指す。 課題に対する取り組みとして、社会人と同等な力を身につける。								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)	参考テキスト:BIA 他 授業ではプリントを中心に行う								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 冠婚葬祭とは何かについて説明できる。 2. ブライダル業界の概	要と課題を説明でき	きる。						
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる。							
□ 関心・意欲の観点	ブライダル業界に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。	ブライダル業界に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□態度の観点	日常生活の中で、接客サービス業に携わるサービスマナーを身に付け	日常生活の中で、接客サービス業に携わるサービスマナーを身に付ける事ができる。							
□技能・表現の観点	の観点								

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

#### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ガイダンス	この授業で学ぶ内容について	
第2回	日本における結婚の定義・歴史について(復習)	法的意義・婚姻の要件・日本の結婚式の歴史など	
第3回	日本における結婚式準備の流れ(復習)	日本における結婚式準備にかかわる知識の確認	
第4回	ブライダル業界で活躍できる人材像①	ブライダル業界で活躍していくにはどのような人材になればよいか 目標を明確にする	
第5回	ブライダル業界で活躍できる人材像②	ブライダル業界で活躍していくにはどのような人材になればよいか 目標を明確にする	
第6回	ブライダル業界人として	業界で働く上で大切なマインドとは	
第7回	企業研究②	社会人になるための基本知識とブライダル業界	
第8回	ブライダル業界への就職について	プライダル業界への就活事情 学生時代に頑張った取り組み	
第9回	業界人としての展開	ブライダル業界で活躍するために身につけておくべきこと	
第10回	日本国内における現状	ブライダル業界の現在の動向 アフターコロナ	
第11回	振り返り①	第6回から第10回の授業の振り返り 課題レポート作成	
第12回	振り返り②	第6回から第11回の授業の振り返り 課題レポート作成	
第13回	ブライダル企業の様々な取り組み	様々な企業が考える結婚式について・取り組み内容など	
第14回	価値のある結婚式について考える	今後のブライダル業界を支える上で必要となる「価値ある結婚式」について考える	
第15回	期末試験		

## 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能•表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	現代ホテル理論 I	単位数	1	科目コード			
授業形態	萧義	対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定 等)	日本のホテル業界を研究し、それぞれの施設が持つ特徴を理解し、利用するお客様が求める「サービス・おもてなし」について理解する。また、お客様からのリクエルト・要望に対応出来る実践的な接客スキルを身につける。						
授業の一般目標	日本のホテル業界を研究し、それぞれの施設が持つ特徴を理解し、利用するお客様が求める「サービス・おもてなし」について理解する。また、お客様からのリクエスト・要望に対応出来る実践的な接客スキルを身につける。						
受講条件	出席率80%以上が前提となる。						
事前学習について (テキスト・参考書等)	「ホテル業務関連知識」						
授業の到達目標							
□ 知識・理解の観点	日本文化を理解し、日本企業で働く上で必要なマインド・マナーを身につ	oける。					
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容ついて自分の意見を論理的に述べることができる	5.					
□ 関心・意欲の観点	ニーズが異なるお客様の気持ちを理解する						
□態度の観点	シーンに合わせた心づかいの大切を身につける。						
□ 技能・表現の観点	お客様に寄り添った接客が出来るようになる。						
授業計画(全体)							

## 授業計画(授業単位)

	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の概要・目的・目標・進め方について説明する	
第2回	ホテル業従業者の資質	身だしなみ、心構え、ホテルマンの資質	
第3回	心のバリアフリー	誰もが暮らしやすい社会を目指して	
第4回	おもてなし企画	おもてなし旅行企画プランの提案	
第5回	日本の文化理解・異文化の理解	各国の宗教・文化への配慮	
第6回	校外授業	ホテル施設見学(リーガロイヤルホテル京都様)	
第7回	企業研究②	グループディスカッションによる振り返りと企業研究	
第8回	ホスピタリティ・マインドとは	ホスピタリティ・マインドを実践するには	
第9回	ホスピタリティ・マインドとは	ホスピタリティ・マインドを実践するには	
第10回	日本の文化理解・異文化の理解	現場活用できる日本文化	
第11回	グループワーク研究	宿泊プランの提案	
第12回	グループワーク研究	宿泊プランの提案	
第13回	グループワーク研究	発表	
第14回	前期の振り返り	前期の復習と定期試験対策	
第15回	定期試験	定期試験を実施する	

#### 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能•表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0	0				50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							20	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表•作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員	村湖	順孝		実務経験紹介				

科目名	現代ホテル理論 Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美しい所作を身に付けると同時にお客様へのおもてなしを体現できる人間になる。マナープロトコール検定3級合格を目指す							
授業の一般目標	立ち方・座り方・食事のマナーを知る。マナープロトコール検定を取得し、社会人になった際にマナーに沿った対応ができるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる						
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点								
	•							

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

#### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション 主語と述語を近づける、相手を敬う表現を正しく使 う	本科目の学習目標を知る 明快で尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使用した文章を作成する	
第2回	修飾・被修飾関係をはっきりさせる・適切な指示代 名詞を使う	情景や細やかな心情を表現するために必要な修飾語表現を学ぶ	
第3回	効果的に接続詞を使う・語尾を統一する	適切に接続詞を入れることで、文と文をつないで、文章を整理し読みやすくする	
第4回	一文を短くする・一文には1つの事柄だけを入れる	要領を得た、わかりやすい文章にするために、短い文章を作成する	
第5回	助詞「の」の連続使用は2回までにする・二重否定 を避ける	単調な、またあいまいな印象を与える言葉の重複使用を避ける	
第6回	事実と推測を区別する	事実と推測を区別することで読み手の誤解を防ぐ	
第7回	企業研究②	読み手が即座に全体像を把握できる構成にする	
第8回	国際プロトコールの基本	国際化社会において必要とされる、外交上のマナーやしきたりを学ぶ	
第9回	食事のマナー	各国料理のテーブルマナーについて学ぶ	
第10回	冠婚葬祭と贈答のマナー	日本の、特に葬しきたりと贈り物・お返しのルールを学ぶ	
第11回	社会人に必要なマナー振り返り	他科目で修得した社会人として必要なマナーについて、マナー・プロトコール検定試験前に振 り返る	
第12回	論理的な文書をつくる(1) 企画書	簡潔でわかりやすいビジネスEメールを書くコツを学ぶ	1月0日
第13回	論理的な文書をつくる(2) メール文	簡潔でわかりやすいビジネスEメールを書くコツを学ぶ	
第14回	論理的な文書をつくる(3) 議事録	情報共有を目的とした議事録において必要な要素を学ぶ	
第15回	まとめ		

# 成績評価方法

		知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		0	0					50	S(4):90点以上
小テスト		0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レ	ポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度				0				10	C(1):60点以上
発表·作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習								評価なし	
出席				0				欠格条件	
担当教員		村津	頭 孝		実務経験紹介				

科目名	ホテルビジネス基礎 I	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	宿泊・料飲・ホテルの歴史・法律などの関連知識といったホテル業務 ル実務技能認定試験初級・上級の合格を目標とする。	宿泊・料飲・ホテルの歴史・法律などの関連知識といったホテル業務に必要な実務知識を習得し、ホテルで 働く上で必要な知識を中心に授業を行い、ホテル実務技能認定試験初級・上級の合格を目標とする。						
授業の一般目標	ホテル実務技能認定試験初級・上級を合格することにより、ホテル業界へ就職した際にも即戦力として活かせる知識を学ぶ。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。	出席率80%以上が前提となる。						
事前学習について (テキスト・参考書等)	「フロント・オフィス編 宿泊 I 」「フロント・サービス編 宿泊 II 」「ホテ	ル業務関連知識」						
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	ホテルの業務について説明する事が出来る。							
□ 思考・判断の観点	ホテル業界ならではのホスピタリティをブライダルのお客様にも応用	する事ができる。						
□ 関心・意欲の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるこ	とができる。						
□態度の観点	日常生活の中でホテルについて主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点	学んだ範囲のホテル実務技能認定試験 初級・上級の過去問題を解くことができる。							
授業計画(全体)	授業計画(全体)							

基本的な知識を修得し、ホテル実務技能認定試験 初級・上級の合格を目指す。

#### 授業計画(授業単位)

0	主 題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の必要性・概要・目的・目標について説明	
第2回	ホテルの種類と組織	シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテル、ホテルの経営形態	
第3回	ホテルの歴史	ホテルのルーツ、ホテルの誕生	確認小テスト
第4回	ホテルの歴史	近代ホテルの発達、日本のホテル史	
第5回	ドアマン・ベルマンの業務	職場環境の整備、出迎えと見送り(ドアマン)、チェックイン時の接客(ベルマン)	
第6回	クローク業務、客室部門	クローク係、クロークルームの整理、ハウスキーピングの業務、客室についての 基礎知識	
第7回	企業研究②	コンシェルジュとは、コンシェルジュ部門の業務内容	
第8回	フロントオフィスとは、客室のタイプと料 金	意義と役割、客室のタイプ、料金システム	確認小テスト
第9回	リザベーション業務	リザベーションクラークの心得、客室予約の種類、予約受付	
第10回	レセプション業務	ルームアサイント、チェックイン業務、チェックアウト業務	
第11回	フロントキャッシャー業務	フロントキャッシャーの概要、会計業務、外貨両替	確認小テスト
第12回	インフォメーション業務	インフォメーション、ルームインフォメーションなど	
第13回	インフォメーション業務	メッセージ、郵便物、電話交換	確認小テスト
第14回	前期の振り返り	前期の復習と定期試験対策	
第15回	定期試験	定期試験を実施する	

## 成績評価方法

				46.4				<b>☆</b> □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0			0		40	秀 (S) :100点~90点
小テスト	0	0	0		0		30	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良 (B):79点~70点
授業態度		0	0				20	可 (D):69点~60点
発表•作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員	村泊	頼 孝		実務経験紹介				

				,			
科目名	ホテルビジネス基礎 Ⅱ	単位数	1	科目コード			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	宿泊・料飲・ホテルの歴史・法律などの関連知識といったホテル業務に必要な実務知識を習得し、ホテルで 働く上で必要な知識を中心に授業を行い、スル実務技能認定試験初級・上級の合格を目標とする。						
授業の一般目標	ホテル実務技能認定試験初級・上級を合格することにより、ホテル業界へ就職した際にも即戦力として活かせる知識を学ぶ。						
受講条件	出席率80%以上が前提となる。						
事前学習について (テキスト・参考書等)	「ホテル業務関連知識」						
授業の到達目標							
□ 知識・理解の観点	ホテルの業務について説明する事が出来る。						
□ 思考・判断の観点	ホテル業界ならではのホスピタリティをブライダルのお客様にも応用	する事ができる。					
□ 関心・意欲の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。						
□態度の観点	日常生活の中でホテルについて主体的に考えることができる。						
□ 技能・表現の観点	学んだ範囲のホテル実務技能認定試験 初級・上級の過去問題を	解くことができる。					
授業計画(全体)							

基本的な知識を修得し、ホテル実務技能認定試験 初級・上級の合格を目指す。

#### 授業計画(授業単位)

0	主 題	授集内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の必要性・概要・目的・目標について説明	
第2回	旅館業法、国際観光ホテル整備法	旅館業法、国際観光ホテル整備法	
第3回	食品衛生と食物アレルギー	食品衛生とは、食品衛生と食中毒、公衆衛生	
第4回	建築基準法、法律、	建築基準法、個人情報保護法	
第5回	環境対策、危機管理	ホテル業界の環境対策、地震災害対策	
第6回	国際的な社交マナー	プロトコールに関する知識、国旗掲揚	
第7回	企業研究②	プロトコールに関する知識、国旗掲揚	
第8回	マーケティング	マーケティング概念の流れ、ホテルイベント	
第9回	マーケティング	マーケティング概念の流れ、ホテルイベント	
第10回	マーケティング	マーケティング概念の流れ、ホテルイベント	
第11回	ホテル実務技能認定試験初級の対策	ホテル実務技能認定試験初級の過去問題	
第12回	ホテル実務技能認定試験初級の対策	ホテル実務技能認定試験初級の過去問題	
第13回	ホテル実務技能認定試験初級の対策	ホテル実務技能認定試験初級の過去問題	
第14回	前期の振り返り	前期の復習と定期試験対策	
第15回	定期試験	定期試験を実施する	

## 成績評価方法

	知識·理解	思考•判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0			0		40	秀 (S):100点~90点
小テスト	0	0	0		0		30	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良 (B):79点~70点
授業態度		0	0				20	可 (D):69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員	村港	頼 孝		実務経験紹介				

講義 必修 人生で最も華やかで輝かしい儀式「結婚式」「披露宴」のための婚礼衣楽	対象学生開設時期	1年生	開設期	半期		
	開設時期					
人生で最も華やかで輝かしい儀式「結婚式」「披露宴」のための婚礼衣裳		前期	教員実務経験対象	有		
コスチュームアドバイザーやスタイリストです。本授業では、衣裳の歴史 などの扱い方を習得します。洋装(ウェディングドレスやカラードレス)・ア 即戦力となれることを目指します。	・ドレスコード・シルコ	シトの名称とその	以合う体型を学び、ドレ	スコード		
①衣裳・小物の種類を理解する。 ②ドレスの着せ方を学び、フィッティングができる。 ③補正の方法やドレスメンテナンスや、扱い方を知る。						
出席率80%以上が前提となる.。						
資料配布。参考書としてBIA『ブライダルコーディネータテキスト・スタンダ	ード』・ABC『The Bu	siness of Japanes	e Weddings』			
衣裳の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。						
ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する事が理解できる。シルエットに添った小物を選らぶ事ができる。						
近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣裳小物、スタイリングを意識できる。						
ドレスフィッティングの出来栄えが美しいか否かの判断ができる。						
ドレスの取り扱い方を知り、お客様へ行うように丁寧に美しくドレス着付き	行える。					
	①衣裳・小物の種類を理解する。 ②ドレスの着せ方を学び、フィッティングができる。 ③補正の方法やドレスメンテナンスや、扱い方を知る。 出席率80%以上が前提となる。。  資料配布。参考書としてBIA『ブライダルコーディネータテキスト・スタンダ  衣裳の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。 ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する事が理が近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣裳小物、スタイリングを意識でドレスフィッティングの出来栄えが美しいか否かの判断ができる。	①衣裳・小物の種類を理解する。 ②ドレスの着せ方を学び、フィッティングができる。 ③補正の方法やドレスメンテナンスや、扱い方を知る。 出席率80%以上が前提となる。。 資料配布。参考書としてBIA『ブライダルコーディネータテキスト・スタンダード』・ABC『The Bu 衣裳の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。 ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する事が理解できる。シルエット 近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣裳小物、スタイリングを意識できる。	①衣裳・小物の種類を理解する。 ②ドレスの着せ方を学び、フィッティングができる。 ③補正の方法やドレスメンテナンスや、扱い方を知る。 出席率80%以上が前提となる。  資料配布。参考書としてBIA『ブライダルコーディネータテキスト・スタンダード』・ABC『The Business of Japanes  衣裳の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。 ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する事が理解できる。シルエットに添った小物を選び近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣裳小物、スタイリングを意識できる。	①衣裳・小物の種類を理解する。 ②ドレスの着せ方を学び、フィッティングができる。 ③補正の方法やドレスメンテナンスや、扱い方を知る。 出席率80%以上が前提となる。。  資料配布。参考書としてBIA『ブライダルコーディネータテキスト・スタンダード』・ABC『The Business of Japanese Weddings』  衣裳の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。 ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する事が理解できる。シルエットに添った小物を選らぶ事ができる。 近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣裳小物、スタイリングを意識できる。		

# 授業計画(授業単位)

<u> </u>	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ガイダンス・コスチュームの概要	ブライダルコスチュームとは、コスチュームアドバイザーとは	
第2回	ウエディングドレスの基礎①	ドレス関連用語、デザインの特徴、アクセサリー、小物の種類など	
第3回	ウェディングドレスの基礎②	ドレスのマテリアル(布地・素材)、サイズ展開、採寸、小物合わせ	
第4回	ウェディングドレスの基礎③	ドレス・ベール・パニエの扱い方、メンテナンスの重要性	
第5回	メンズコーディネート	新郎衣裳の基礎知識、衣裳店について	小テスト
第6回	フィッティング① 基礎編	ドレスの着せ方、選び方、ドレス下着の重要性など	用意:白手袋/着付室実習
第7回	企業研究②	お客様のサイズに合わないドレスの着せ方・補正のテクニック	着付室実習
第8回	フィッティング③ 応用編	体型などの悩みにあわせたコーディネート	着付室実習
第9回	スタイリングの実践①	ドレスショップでの接客や提案の仕方、ドレス着付けの実践	着付室実習
第10回	スタイリングの実践②	ドレスショップでの接客や提案の仕方、ドレス着付けの実践	着付室実習
第11回	和装コーディネート①(衣装店見学)	和装婚礼の衣裳に関する基礎知識・コーディネートの仕方	衣裳店見学(予定)
第12回	和装コーディネート②(衣裳店見学)	列席者衣裳の種類やしきたり、マナーを学ぶ	衣裳店見学(予定)
第13回	ドレススタイリング 準備編	会場、モデル役に合わせたコーディネートを考える	グループワーク
第14回	ドレススタイリング 実践編	実際にコーディネートをし、プレゼンテーション	グループワーク
第15回	前期試験	前期の振り返り	

# 成績評価方法

		知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		0	0	0		0		50%	S(4):90点以上
小テスト		0	0	0				10%	A(3):80点以上
グループワーク	1		0	0		0		10%	B(2):70点以上
授業態度		0		0	0			20%	C(1):60点以上
発表·作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習		0	0	0		0		10%	
出席								欠格条件	
担当教員		北	昌幸		実務経験紹介	h	nttps://www.yic-	-kyoto-beauty	ac.jp/voice/kita/

科目名	ブライダルコスチューム Ⅱ	単位数	1	科目コード			
授業形態	護義	対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主にドレススタイリスト検定取得を目指した対策授業を行う。また お客様のドレス選びに必要な事前準備、ヒアリング内容、小物製						
授業の一般目標	①ドレススタイリスト検定取得を目指す。 ②実践的なお衣裳担当の接客を学ぶ。						
受講条件	出席率80%以上が前提となる。						
事前学習について (テキスト・参考書等)							
授業の到達目標							
□ 知識・理解の観点	衣裳の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。						
□ 思考・判断の観点	ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する	事が理解できる。シルエット	に添った小物を選	選らぶ事ができる。			
□ 関心・意欲の観点	近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣裳小物、スタイリングを意識できる。						
□態度の観点	ドレスフィッティングの出来栄えが美しいか否かの判断ができる。適切な取り扱いができる。						
□ 技能・表現の観点	ドレススタイリスト検定を取得できる。						

# 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	衣裳店のビジネス市場	衣裳店のビジネス市場、お客様の動向を知る	
第2回	ドレス構造とデザイン	ドレス構造とデザイン、ドレスに合わせる小物	
第3回	サイズ展開について	ドレスのサイズ展開と採寸、補正、体験によりスタイリング効果	
第4回	男性の洋装	男性洋装とサイズ展開。実践にむけてのタキシード提案方法を学ぶ	
第5回	和装について	新郎新婦の和装衣裳、列席者衣裳について	
第6回	ドレスのシルエットについて	ドレスシルエット、素材、スタイリングなどの復習。検定対策	
第7回	企業研究②	ドレススタイリスト検定の過去問より、中間テストを行う。	
第8回	ドレスの提案方法について	ドレス提案に関する再復習、検定の過去問題より対策	
第9回	論述問題について	検定で出題される、論述問題の傾向を学ぶ	
第10回	ブライダルパーティの衣裳	欧米におけるブライダルパーティについて、衣裳店実務について学ぶ。	
第11回	ドレススタイリスト検定対策	総復習を行う。	
第12回	ドレススタイリスト検定試験実施	ドレススタイリスト検定試験実施	1月0日
第13回	ドレススタイリスト検定対策	ドレススタイリスト検定復習と答合わせ	
第14回	期末テスト対策	期末テスト範囲に関する復習	
第15回	期末テスト	期末テスト、会場に合うドレスと小物のプレゼン	

## 成績評価方法

	知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0	0				50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート			0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0		0		10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

0		主題		授業内容			備考
授業計画(授業	(単位)						
基本的な知識を	を修得し応用に発	き展する					
受業計画(全体	<b>k</b> )						
□ 技能·表現の	の観点	司会、音響、衣裳などそれぞれ与	えられた役割を円滑にこなす事がで	きる			
□ 態度の観点	i	プロのプランナーと同等のマナーで	で参列者や他の学生に対応する事	ができる			
□ 関心・意欲の	の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り	入れた進行を行える				
□ 思考·判断 <i>0</i>	の観点	準備及び本番の時間管理を行いた	いがら、オリジナルの披露宴と挙式	を実行する事ができる			
□ 知識·理解 <i>0</i>	の観点	挙式や披露宴の進行やあらゆる演	<b>遺出について説明が出来る</b>				
授業の到達目	標						
事前学習につし (テキスト・参考							
受講条件		出席率80%以上が前提となる					
授業の一般目標	標	披露宴の打合せから施行までの基本が	対応を学び、学生達により実施する				
授業概要 (目的、目標とする:		学内でオープンキャンパスを通して模 また、ブライダルに携わる業務全てを含				本物の結婚式)の場合もあ	აგ.
区分		必	教員実務経験対象	有			
授業形態		実	習	対象学生	1年生	開設期	通期
科目名		ブライダルプロ	コデュース I	単位数	2	科目コード	

	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	オリエンテーション テーマ・スケジュールの確定	授業の概要を説明、テーマを発表し、完成までのスケジュールを確認する	
第2回	テーマに沿ったプレゼン準備	各自テーマに合わせての披露宴プランを作成	
第3回	模擬披露宴準備	装飾や新郎新婦イメージの確定・招待状のデザイン確定	各担当ごとに、準備・練習を行い
第4回	模擬披露宴準備	招待者リストアップ・招待状の作成	都度情報の共有を行う
第5回	模擬披露宴準備	進行表の完成→BGM・司会進行準備を開始する	
第6回	模擬披露宴準備	会場レイアウトを確定し、装飾品や新婦のブーケなどの準備を行う	
第7回	企業研究②	各役割ごとの準備や練習を行う	レポート提出
第8回	模擬披露宴準備	各役割ごとの準備や練習を行う	
第9回	模擬披露宴リハーサル	動きを確認しながらリハーサルを行う	
第10回	模擬披露宴リハーサル/模擬披露宴準備	リハーサルを通じて、改善・修正をする 各グループで役割・仕上がりを再確認	
第11回	模擬披露宴リハーサル/模擬披露宴準備	リハーサルを通じて、改善・修正をする 各グループで役割確認	
第12回	模擬披露宴リハーサル	通しリハーサルを行い、動きの確認をする	1月0日
第13回	模擬披露宴リハーサル	当日スケシュールの最終確認	
第14回	模擬披露宴リハーサル	客入りから迎賓までの動きを確認しながら通しリハーサルを繰り返す	レポート提出
第15回	模擬披露宴実施	模擬披露宴の実施	

# 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S):100点~90点
小テスト								優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		0	0	0			25	良 (B):79点~70点
授業態度		0	0				40	可 (D):69点~60点
発表·作品	0	0	0	0	0		35	不可(E):59点以下
演習								
出席			0				失格条件	
旦当教員 國定 章子			実務経験紹介	http	s://www.yic-k	yoto-beauty.ac	.jp/voice/kunisada/	

科目名	ブライダルプロデュース II 単位数 2 科目コード							
授業形態	実習 対象学生 2年生 開設期							
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	学内でリアルウェディング(本物の結婚式)を行い、現場の緊張感やチームワークを学ぶ。 また、ブライダルに携わる業務全てを学生時代から経験する事で、プランナーとして通用する人間になる							
授業の一般目標	本物の結婚式と披露宴を、打合せから施行まで全てを学生主導で行う。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	挙式や披露宴の進行やあらゆる演出について説明が出来る							
□ 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの披露宴と挙式を見	そ行する事ができる						
□ 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた進行を行える	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた進行を行える						
□ 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参列者や他の学生に対応する事ができる							
□ 技能・表現の観点	観点 司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる							
授業計画(全体)	•							

## 授業計画(授業単位)

П	主 糧	授 業 内 容	備考
第1回	リアルウェディング	概要説明・役割分担・完成までの準備スケジュールの確定	
第2回	リアルウェディング(準備編)	テーマについて(全体)、招待状・席札・席次等のデザインと作成	
第3回	リアルウェディング(準備編)	ドレス提案と着、ヘアメイク提案と施術、ブーケ、ヘアード提案と作成	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第4回	リアルウェディング(準備編)	進行内容確定(全体)、進行に添った司会台本の作成と練習、 音響照明、カメラの練習と準備	都度情報の共有を行う
第5回	リアルウェディング(準備編)	会場レイアウト及び装飾の確定、装飾作成、席次表作成	
第6回	リアルウェディング(準備編)	打合せ内容の共有、当日スケジュール確定、備品類準備、当日サービス配置確定など	
第7回	企業研究②	ゲストとの打合せ実践を行う(複数回実施予定)	レポート提出
第8回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を集約し、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返 す	
第9回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を一同に集め、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を 繰り返す	
第10回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を一同に集め、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を 繰り返す	
第11回	リアルウェディング(リハーサル編)	職員を招き、本番想定のリハーサルを実施	
第12回	リアルウェディング(リハーサル編)	本番に備えた最終準備・リハーサル	1月0日
第13回			
第14回	リアルウェディング実施	準備から本番、お見送りまで当日の運営を全て学生達で行う	レポート提出
第15回			

# 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。

		知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験									秀 (S):100点~90点
小テスト									優 (A):89点~80点
宿題授業外し	ノポート		0	0	0			25	良 (B):79点~70点
授業態度			0	0				40	可 (D):69点~60点
発表·作品		0	0	0	0	0		35	不可(E):59点以下
演習									
出席				0				失格条件	
担当教員		國定	章子		実務経験紹介				

科目名	セレモニープロデュース I 単位数 2 科目コード						
授業形態	実習	通期					
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	模擬挙式の企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割や、チームワークを学ぶ。						
授業の一般目標	模擬挙式を、プライダル科2年生・先生方をお客様とし実施する	模擬挙式を、ブライダル科2年生・先生方をお客様とし実施する					
受講条件	出席率80%以上が前提となる						
事前学習について (テキスト・参考書等)							
授業の到達目標							
□ 知識・理解の観点	挙式の進行やあらゆる演出について説明が出来る						
□ 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの挙式を実行する	事ができる					
□ 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた挙式を行える	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた挙式を行える					
□ 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参列者や他の学生に対応する事ができる						
□ 技能・表現の観点	司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる						
授業計画(全体)	リエ、日音、 <u>以</u> 衣なとてれてれりたりれに収割を竹店にこは 9 争かでき	' <b>ত</b>					

## 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の概要、模擬挙式までのスケジュールを説明、挙式について	4月12日
第2回	テーマ確定	テーマウエディングについて 挙式のテーマを決める	4月19日
第3回	プランニングの発表・模擬挙式進行の決定	役割の決定・進行詳細決定	4月26日
第4回	模擬挙式準備	進行の詳細(司会台本の作成)・必要準備アイテムについて考える	5月10日
第5回	模擬挙式準備	役割分担を行い、各自スケジュールを組み立てる、準備	5月17日
第6回	模擬挙式準備	各役割ごとの準備や練習を行う	5月24日
第7回	企業研究②	各役割ごとの準備や練習を行う	5月31日
第8回	模擬挙式準備	各役割ごとの準備や練習を行う	6月7日
第9回	音響・照明について	音響・照明技術について学ぶ	6月14日
第10回	音響・照明について	音響・照明技術について学ぶ	6月21日
第11回	音響・照明について	音響・照明技術について学ぶ	6月28日
第12回	模擬挙式リハーサル	本番想定のリハーサルを行う	7月5日
第13回	模擬挙式リハーサル	本番同様 全てを通して行う	7月12日
第14回	模擬挙式リハーサル	本番同様 全てを通し準備	7月19日
第15回	模擬学式実施(本番)	模擬拳式 本番	7月21日(金) 3,4限

## 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考•判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀 (S):100点~90点
小テスト							評価なし	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		0	0	0			20	良 (B):79点~70点
授業態度		0	0	0			30	可 (D):69点~60点
発表·作品	0	0	0	0	0		50	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0					
			•					

 担当教員
 國定 章子
 実務経験紹介
 <a href="https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/">https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/</a>

				I			
科目名	セレモニープロデュース II	単位数	2	科目コード			
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	模擬学式から披露宴までの企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割を理解して、 ブライダルプランナーになる意識を高める						
授業の一般目標	保護者や学生、内定先の企業様をお招きして、挙式から模擬披露宴を実施する。						
受講条件	出席率80%以上が前提となる						
事前学習について (テキスト・参考書等)							
授業の到達目標							
□ 知識・理解の観点	披露宴の進行やあらゆる演出について説明が出来る						
□ 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの披露宴を実行する	ら事ができる					
□ 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた披露宴を行える						
□態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参列者や他の学生に対応する事ができる						
□ 技能・表現の観点 司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる							
授業計画(全体)							

## 授業計画(授業単位)

0	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション テーマ・スケジュールの確定	授業の概要を説明、テーマを発表し、完成までのスケジュールを確認する	4月15日(金)
第2回	テーマに沿ったプレゼン準備	各自テーマに合わせての披露宴プランを作成	4月22日(金)
第3回	模擬披露宴準備	装飾や新郎新婦イメージの確定・招待状のデザイン確定	5月13日(金)
第4回	模擬披露宴準備	招待者リストアップ・招待状の作成	5月20日(金)
第5回	模擬披露宴準備	進行表の完成→BGM・司会進行準備を開始する	5月27日(金)
第6回	模擬披露宴準備	会場レイアウトを確定し、装飾品や新婦のブーケなどの準備を行う	6月3日(金)
第7回	企業研究②	各役割ごとの準備や練習を行う	6月10日(金)
第8回	模擬披露宴準備	各役割ごとの準備や練習を行う	6月17日(金)
第9回	模擬披露宴リハーサル	動きを確認しながらリハーサルを行う	6月24日(金)
第10回	模擬披露宴リハーサル/模擬披露宴準備	リハーサルを通じて、改善・修正をする 各グループで役割・仕上がりを再確認	7月1日(金)
第11回	模擬披露宴リハーサル/模擬披露宴準備	リハーサルを通じて、改善・修正をする 各グループで役割確認	7月8日(金)
第12回	模擬披露宴リハーサル	通しリハーサルを行い、動きの確認をする	7月15日(金)
第13回	模擬披露宴リハーサル	当日スケジュールの最終確認	7月22日(金)
第14回	模擬披露宴リハーサル	客入りから迎賓までの動きを確認しながら通しリハーサルを繰り返す	7月28日(木)
第15回	模擬披露宴実施	模擬披露宴の実施	7月29日(金)

#### 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。

		知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		0	0					15	秀 (S):100点~90点
小テスト									優 (A):89点~80点
宿題授業外レポー			0	0	0			10	良 (B):79点~70点
授業態度			0	0				30	可 (D):69点~60点
発表·作品		0	0	0	0	0		45	不可(E):59点以下
演習									
出席				0					
担当教員 國定 章子			実務経験紹介	http	os://www.yic-ky	oto-beauty.ac	.jp/voice/kunisada/		

	I			T	Ī	
科目名	ブライダル企画運営	単位数	1	科目コード		
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期	
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)						
授業の一般目標						
受講条件	出席率80%以上が前提となる					
事前学習について (テキスト・参考書等)						
授業の到達目標						
□ 知識・理解の観点	挙式の進行やあらゆる演出について説明が出来る					
□ 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの挙式を実行する『	事ができる				
□ 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた挙式を行える					
□ 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参列者や他の学生に対応する事ができる					
□ 技能・表現の観点	技能・表現の観点 司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる					
授業計画(全体)	•					

## 授業計画(授業単位)

<u> </u>	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の概要(自己紹介含)・ブライダルフェアについて(マーケティングの観点を学び、企画立 案へ)	
第2回	競合他社、イベントリサーチをする	競合他社がどのようなイベントを開催しているのかを知る ウエディング業界トレンドのイベントをリサーチする	
第3回	イベント内容を考える①	フェア内容を考える(模擬挙式・模擬披露宴・アフターセレモニー・試食・ドレス試着など)	
第4回	イベント内容を考える②	より集客できるフェアイベントを話し合う(マーケティング手法を活かす)	
第5回	イベント内容の発表(グループディスカッション)	フェアイベント内容を話し合う	
第6回	イベント各担当を決める	イベント毎の担当を決め、チームとして円滑に取り組みしくみを学ぶ	
第7回	企業研究②	告知場所、方法を学ぶ。フェア告知用のフライヤー作成	
第8回	イベントフライヤー作成②・告知	フライヤー作成・告知UP	
第9回	ブライダルフェア準備①	各イベント打合せ(キックオフ)	
第10回	ブライダルフェア準備②	各イベント打合せ(手配発注)	
第11回	ブライダルフェア準備③	司会進行打合せ、衣裳、装花、アイテム…など	
第12回	ブライダルフェア準備④	最終確認(各イベント進捗情報共有・司会進行確認・集客情報確認・お客様情報共有)	
第13回	ブライダルフェア実施	実施(当日確認・時間管理・おもてなし・スタッフ管理)	
第14回	小テスト	企画運営に関わる知識の確認	小テスト実施
第15回	イベントを振り返り(未来への企画)	フェアでうまくできたこと、そうでなかったことの振り返りと、近未来に向けたイベントの創出	

# 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀 (S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		0	0	0			10	良 (B):79点~70点
授業態度		0	0	0			30	可 (D):69点~60点
発表·作品	0	0	0	0	0		45	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0					
担当教員 國定 章子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/			.jp/voice/kunisada/	

科目名	ホテルマーケティング 単位数 1 科目コード								
授業形態	演習	対象学生	2年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	テーマをもとに現在の環境・業界・ホテル等の課題を取り上げ、新規ホテ考え方を学ぶ。	テーマをもとに現在の環境・業界・ホテル等の課題を取り上げ、新規ホテルとそのホテルで販売する商品を提案し、発表する機会を設け、学んだことを表現・実践する 考え方を学ぶ。							
授業の一般目標	学生のアイデアを実際のホテルの商品化へ(産学連携)								
受講条件	出席率80%以上が前提となる	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	マーケティングの業務について説明する事が出来る。								
□ 思考・判断の観点	実現可能な業界提案を行う事で、発想力・想像力・対応力を磨き将来へ	の自信とする。							
□ 関心・意欲の観点	学生ならではの発想により、業界課題への一助とする。								
□ 態度の観点	日常生活 の中で各業界 について主体的 に考えることができる。								
□ 技能・表現の観点	プレゼンテーション力を身につける。								

基本的な知識を修得し応用に発展する

# 授業計画(授業単位)

<u> </u>	主 題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の必要性・概要・目的・目標について説明	
第2回	マーケティング部門	マーケティングとは、宿泊プランとは、グループを決める	
第3回	ホテル計画について	グループ内でホテル計画について協議(分析に基づいた立案協議)	
第4回	ホテル計画について	グループ内でホテル計画について協議(分析に基づいた立案協議)	
第5回	ホテルの調査	現状調査・顧客層・販売促進につながるヒントを探る	
第6回	ホテルへのヒヤリング	ホテル企業へのヒヤリング	
第7回	企業研究②	グループ内で商品計画について協議(分析に基づいた立案協議)	
第8回	商品計画について	グループ内で商品計画について協議(分析に基づいた立案協議)	
第9回	商品計画について	グループ内で商品計画について協議(分析に基づいた立案協議)	
第10回	企画書の発表	各グループで企画案を発表する。	
第11回	提案会の練習	台本作成、リハーサル、修正(パワポ)	
第12回	提案会の練習	台本作成、リハーサル、修正(パワポ)	
第13回	提案会の練習(全体を通してのリハーサ ル)	台本作成、リハーサル、修正(パワポ)	
第14回	提案会	ホテル企業の幹部を招いて発表会	
第15回	提案会の振り返り	提案会の振り返りを行う	

## 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表・演習70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

発表・演習70%、提出物 & 授業態度点20%、出席点10%を検算して総合評価を行う。

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	0	0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0	0	0		10	C(1):60点以上
発表•作品		0	0	0	0		40	D:59点未満 未修得
演習		0	0	0	0		30	
出席			0				欠格条件	
担当教員	村為	賴孝		実務経験紹介				

科目名	料飲実務 I	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	料飲(レストラン・宴会)などの関連知識といったホテル業務に必要な実務知識を習得し、ホテルで働く上で必要な知識を中心に授業を行い、ホテル実務技能認定試験初級・上級の合格を目標とする。							
授業の一般目標	ホテル実務技能認定試験初級・上級を合格することにより、ホテル業界	へ就職した際にも即	戦力として活かせる	5知識を学ぶ。				
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	「レストラン・宴会編 料飲Ⅰ」「バー・ラウンジ編 料飲Ⅱ」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	料飲実務について自分の意見を論理的に述べることができる							
□ 思考・判断の観点	日常生活の中でサービス、ホスピタリティについて主体的に考えることか	「できる						
□ 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を、模擬披露宴等の実習で活かすことができる							
□ 態度の観点	日常生活の中でサービス、ホスピタリティについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	料飲実務の基本技能を行うことができる							

基本的な知識を修得し応用に発展する

# 授業計画(授業単位)

	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の必要性・概要・目的・目標について説明	
第2回	料飲部門の概要	ホテルの料飲部門とは?、料飲部門の組織	
第3回	什器・食器・備品類の知識	什器・食器・備品類・リネン類・ワゴン類	
第4回	メニュー・西洋料理の基礎知識	メニューとは、コース料理と一品料理、フルコースの解説、テーブルマナー	
第5回	朝食の基礎知識	朝食の基本料理、朝食のメニュー	
第6回	日本料理・中国料理の基礎知識	日本料理の種類、中国料理の種類	
第7回	企業研究②	レストランの収入、ルームサービス、レストラン運営の基本	
第8回	宴会部門の概要・宴会予約	宴会部門の組織、宴会業務の流れ、宴会セールス	
第9回	宴会サービス、婚礼サービス	宴会サービス業務、婚礼サービス業務	
第10回	バー・ラウンジの概要	バー・ラウンジ運営の基礎知識、種類	
第11回	酒の基礎知識	スピリッツ、醸造酒、混成酒	
第12回	カクテルの基礎知識	カクテルの概論、材料、作り方	
第13回	ワインの基礎知識、ソムリエ	ワインの歴史、ワイン概論、フランスワインなど	
第14回	前期の振り返り	前期の復習と定期試験対策	
第15回	定期試験	定期試験を実施する	

## 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0	0			20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	0	0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0	0	0		10	C(1):60点以上
発表•作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員	村為	賴孝		実務経験紹介				

科目名	料飲実務Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	実習 対象学生 2年生 開設期				半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職先で困らないようにレストランサービス、宴会サービスに携わるプロフェッショナルとして身につけるべき基本事項を学び、お客様にレストラン、宴会の料理、飲物だけではく、ホスピタリティに感動して頂くための技能を見につける。							
授業の一般目標	授業で学んだ内容を、模擬披露宴などの実践で活用し、就職後の接客も	ナービスを円滑に行	えるようになる					
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	レストラン・宴会繙(ウイネット)							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	料飲実務について自分の意見を論理的に述べることができる							
□ 思考・判断の観点	日常生活の中でサービス、ホスピタリティについて主体的に考えることか	<b>「できる</b>						
□ 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を、模擬披露宴等の実習で活かすことができる							
□態度の観点	日常生活の中でサービス、ホスピタリティについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	料飲実務の基本技能を行うことができる							

基本的な知識を修得し応用に発展する

# 授業計画(授業単位)

	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明、お皿の持ち方、料理のサービス方法、サーバーの扱い方	
第2回	料飲業務の実践①	立ち方、歩き方、お辞儀の仕方、身だしなみと基本動作	
第3回	料飲業務の実践②	お皿のシルバーのバッシング方法	
第4回	料飲業務の実践③	トレイの扱い方(ドリンク提供、バッシング方法)	
第5回	料飲業務の実践④	お客様のお迎え、席への案内と着席補助、注文の受け方	
第6回	料飲業務の実践⑤	注文に沿ったテーブルセッティング、サーバーの持ち方、パンのサービス	
第7回	企業研究②	水のサービス、ワインのサービス、注文の料理をサービスする	
第8回	料飲業務の実践⑦	バッシング、お見送り、テーブル上の片づけ	
第9回	接客サービスの実技テストの練習	これまで実践してきたレストランサービスの一連の流れについて確認する	
第10回	接客サービスの実技テストの練習	これまで実践してきたレストランサービスの一連の流れについて確認する	
第11回	接客サービスの実技テストの練習	これまで実践してきたレストランサービスの一連の流れについて確認する	
第12回	接客サービスの実技テスト	これまで実践してきたレストランサービスの一連の流れについてのテストを実施する	
第13回	課外実習(報告レポート提出)	レストランサービスの基本を現場のサービスマンから実際に指導を受ける(テーブルマナー)	
第14回	期末テスト対策	課外実習の振り返りと期末テストの対策を行う	レポート提出
第15回	期末テスト	期末テストを実施する	

# 成績評価方法

		知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		0	0					30	S(4):90点以上
小テスト								評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レ	ポート	0	0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度				0	0	0		10	C(1):60点以上
発表·作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習			0	0	0	0		40	
出席				0				欠格条件	
担当教員		村湖	順孝		実務経験紹介				

1		T	I	1				
科目名	フラワーコーディネイト I	単位数	1	科目コード				
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定 等)	結婚式や披露宴を演出するに必要なカラーフラワーの知識を理解する。フラワーアレジメントの基本の実践とテクニックを学び、表現を身に付ける。ドレスに合った ブーケ提案、披露宴イメージにあったテーブル装飾が提案できる。							
授業の一般目標	花の種類、等基本的な知識の修得。ドレスや披露宴に合ったブーケの提 1月実施のブライダルフラワーコーディネーター検定(BFC)3級合格を目		ジの基本的な技術	<b>がの習得。</b>				
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	ブライダルフラワーの基礎知識を説明し、検定を取得する。							
□ 思考・判断の観点	後期の実践的授業に向けて、会場イメージを想像し、ドレスにあったブー	-ケデザインを考える	多事ができる。					
□ 関心・意欲の観点	季節ごとの花、ブライダルに合う装花について、授業以外でも主体的に	季節ごとの花、ブライダルに合う装花について、授業以外でも主体的に学ぶ事ができる。						
□ 態度の観点	お客様のニーズを引き出し、お客様が求める色合いやデザインを提案できるようになる。							
□ 技能・表現の観点	フラワーアレンジメントの基本のテクニックを身につける事ができる。							
IN ARCHITECT (A.I.)								

基本的な知識を修得し応用に発展する

## 授業計画(授業単位)

汉朱们四(1)	(A+ L)		
0	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、取り組み方など	
第2回	ミニ花束 作成	生花の取り扱い①、ミニ花束の作成	
第3回	ヘアパアーツ 作成	生花の取り扱い②、ヘアパーツの作成	
第4回	リストレット 作成	アートフィッシャルフラワーでリストレット作成	
第5回	ラウンドアレンジメント	生花を使ってアレンジメント(ラウンド)	
第6回	ブーケについて	ブーケの種類・ブーケの花材など	座学
第7回	企業研究②	アーティフィシャルフラワーでブートニア作成	
第8回	ブートニア 巻き上げ	リボンを使って巻き上げ演習	
第9回	ヘッドリース 作成	アーティフィシャルフラワーでヘッドリース作成	
第10回	アレンジメント応用(ホリゾンタル)	生花で作成	
第11回	クリスマスリース	シーズンフラワーとしてのアレンジ	
第12回	アレンジメント応用(トライアンギュラー)	生花で作成	
第13回	ギフトアレンジ	自分で贈る相手を考え、デザイン画から作成まで	
第14回	ブライダルフラワーコーディネーター検定3級対策	過去問題など	
第15回	ブライダルフラワーコーディネーター検定/期末	期末試験(筆記・実技)	
	1		1

# 成績評価方法

	知識·理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表•作品		0	0				10	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	フラワーコーディネートⅡ	単位数	1	科目コード					
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期				
区分	必修	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象 -							
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)									
授業の一般目標	シーンやドレスに合ったブーケの提案ができる。生花・アート・プリザーブドなど花材にあわせた扱い方ができる。 またイメージに合わせたテーブル装花の提案ができ実践的な場所にて生かしていく。								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	前期で習得した、基礎知識を応用する事ができる。								
□ 思考・判断の観点	実践的授業にて、会場装飾を決定しドレスにあったブーケをデザインする	る事ができる。							
□ 関心・意欲の観点	ゲストハウスやホテル等のディスプレイや装飾を研究し、授業以外でも主体的に学ぶ事ができる。								
□態度の観点	他の学生と協力し、話し合いながらお客様が求める装飾、ブーケを提案できるようになる。								
□ 技能・表現の観点	□ 技能·表現の観点 実習において学んだ技術を再現することができる、また模擬など実践授業において装飾・ブーケを作成できる。								

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

## 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション・復習	授業の取り組み方について・1年次に学んだことの復習・リボン制作	
第2回	会場装花の提案	会場装花のデザインについて考える	グループワーク
第3回	プリザーブドフラワーについて①	プリザーブドフラワーの取り扱い方を学ぶ	
第4回	プリザーブドフラワーについて②	プリザーブドフラワーを使った実習	
第5回	フラワーアレンジ応用	贈呈花束など「ギフト」としてのアレンジについて学ぶ	
第6回	ラウンドのアレンジ	生花を使用し、少しボリュームのあるラウンドアレンジ	
第7回	企業研究②	生花を使用	
第8回	花冠の作成	生花を使用	
第9回	会場メイン装花 作成	生花を使用し 会場装花を作成	グループワーク
第10回	ブートニア作成	アーティフィシャルフラワーを使用	
第11回	ヘアアクセサアリー作成	「和」をイメージしたヘアクリップ作成	
第12回	ペタルトルソー 作成①	メモリアルアイテム作成	
第13回	ペタルトルソー 作成②	メモリアルアイテム作成	
第14回	期末試験対策	生花を使用し、ブートニア作成・筆記試験対策	
第15回	期末試験	筆記・実技(生花を使用しひとりでブートニア作成)	

# 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0			0		30	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度	0	0	0	0	0		50	C(1):60点以上
発表·作品	0		0		0		20	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	着付け・作法	単位数	2	科目コード					
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期				
区分	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象 -								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	留袖の着付けを通して帯結び(お太鼓・飾り結び)が数種できるように	実践的な授業。和装0	)名称を覚える。 新	<b>听郎新婦の婚礼和装の基</b>	基本を知識として学ぶ。				
授業の一般目標	ブライダルの現場ではお直しや留袖の着付けを求められことも多いが対応することができるようになる。								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明で	きる							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	<b>べできる</b>							
□ 関心・意欲の観点	着付けに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる								
	日常生活の中で着付けについて主体的に考えることができる								
□ 態度の観点	与えられた時間内で、的確な知識を持って留袖着付けができる								

## 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1週	着物について知ろう・畳み方	和室でのあいさつ・着物のたたみ方(本畳み、夜具畳み、長襦袢の畳み方、衿とじ)	
第2週	長襦袢着付方①	身体に合った補正の仕方(畳み方練習)・長襦袢着付	
第3週	長襦袢着付②	補正~長襦袢着付(相モデル)	
第4週	留袖着付①	補正~長襦袢~留袖着付(相モデル)	
第5週	留袖着付②	補正~長襦袢~留袖着付(相モデル)	
第6週	留袖の帯結び①	長襦袢着付け(相モデル)・留袖着付二重太鼓	第1回目から着付け室集合 裁縫セット
第7週	企業研究②	帯結びの基本としてお太鼓の結び方(相モデル)	マオル5枚・肌襦袢 マスキングテープ持参
第8週	留袖の帯結び②	帯結びの基本としてお太鼓の結び方(相モデル)	
第9週	新婦着付①	新婦和装着付①	
第10週	新婦着付②	新婦和装着付②	
第11週	新郎着付①	新郎和装着付①	
第12週	新郎着付②	新郎和装着付②	
第13週	振袖着付け方・課題練習	振袖の着付け方でモンストレーションと期末試験課題の練習	
第14週	留袖着付	期末試験課題練習	裁縫セット
第15週	期末試験	指導員の指定する時間内に着つけられるようになる	- タオル5枚・肌襦袢 マスキングテープ持参

成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0	0				40	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			0	0			20	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習	0	0	0				40	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	京都和婚	単位数	1	科目コード						
授業形態	講義	半期								
区分	必修 開設時期 後期 教員実務経験対象 -									
授業概要 古都の風情と伝統的な文化が深く根付いた京都で、神社仏閣や庭園での美しい結婚式について教授する。 また、日本の儀式や慣習に従って行われている和婚の良さを実際に体感し、全国や外国人観光客に魅力を広めていける人材を目指す。										
授業の一般目標	京都についての歴史・文化・地域の特性を知る。 京都和婚が行われている神社仏閣について探求する。 伝統的な和装衣装やヘアメイクについての知識を得る。									
受講条件	出席率80%以上が前提となる。									
事前学習について (テキスト・参考書等)										
授業の到達目標										
□ 知識・理解の観点	京都の歴史や慣習、神社仏閣での結婚式についての知識を深め説明が	<b>「できる。</b>								
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる。								
□ 関心・意欲の観点	京都和婚に関する関心を広げ、特性あるウエディングであることの意識	を高めることができ	<b>ა</b> .							
□ 態度の観点										
□ 技能・表現の観点	□ 技能・表現の観点 和婚について着付けやヘアメイクの技術が身に付いている。									
授業計画(全体)										

# 授業計画(授業単位)

<b>I</b>	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ガイダンス	この授業で学ぶ内容について	
第2回	日本における結婚の定義・歴史について(復習)	法的意義・婚姻の要件・日本の結婚式の歴史など	
第3回	日本における結婚式準備の流れ(復習)	日本における結婚式準備にかかわる知識の確認	
第4回	昨今の結婚式について	昨今の結婚式事情を学ぶ コロナ禍での影響	
第5回	京都エリアの婚礼の特色(京都和婚)	京都和婚について特色・歴史や文化に触れる	
第6回	京都神社仏閣について	京都和婚が施行されている神社仏閣について	
第7回	企業研究②	京都の食文化を取り入れた披露宴	
第8回	京都神社 見学①	実際に足を運び、京都和婚や神前式について学ぶ	
第9回	京都神社 見学②	実際に足を運び、京都和婚や神前式について学ぶ	
第10回	京都神社 見学③	ふり返り レポート課題提出	
第11回	和婚について①	和装・ヘアメイク(基本知識)	
第12回	和婚について②	和装・ヘアメイク(実技)	
第13回	和婚について③	和装・ヘアメイク(実技)	
第14回	京都和婚についての総まとめ		
第15回	期末試験		

# 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員 杉山 美帆子		実務経験紹介	http	s://www.yic-ky	oto-beauty.ac.	jp/voice/sugiyama/		

科目名	ブライダルプランニング演習	単位数	1	科目コード					
授業形態	実習 対象学生 2年生 開設期								
区分	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知る。また実際	に打ち合わせ内容に	ついて説明ができ	きるようにロープレを実施	する。				
授業の一般目標	プランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知り、プランニン	ッグ能力の向上を図る	5.						
受講条件	出席率80%以上が前提となる								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる								
□ 思考・判断の観点	結婚式や披露宴においてプランナーとして必要な対応や準備手順がわかる	5							
□ 関心・意欲の観点	ブライダルプランナーに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることが	<b>べできる</b>							
□ 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	お客様に対して打ち合わせの内容について理解できるように説明ができる								
授業計画(全体)									

## 授業計画(授業単位)

O	主題	授業内容	備考			
第1回	ガイダンス	授業概要・結婚式のイメージ・結婚式という商品について	4月13日			
第2回	結婚式場について	実際に結婚式に足を運び施設についてやプランナー業務について学ぶ(アイネス宝ケ池様)	4月20日			
第3回	結婚式の準備について	結婚式本番までの打ち合わせの流れについてレクチャーを受ける(アイネス宝ヶ池様)	4月20日			
第4回	ブライダルアイテム	ブライダルアイテムについての理解を深める	5月11日			
第5回	打合せの基礎①	招待状とは・招待状の内容について知る	5月18日			
第6回	打合せの演習	招待状打ち合わせの演習	5月25日			
第7回	企業研究②	席次表とは・席次表の内容について知る	6月1日			
第8回	打合せの演習	席次表打ち合わせの演習	6月8日			
第9回	打合せの基礎③	進行・演出の内容について知る	6月15日			
第10回	打合せの演習	進行に関する打ち合わせの演習	6月22日			
第11回	イメージトレーニング①	様々なテーマをピックアップし、どのような提案ができるか話し合う	6月29日			
第12回	イメージトレーニング②	様々なテーマをピックアップし、どのような提案ができるか話し合う	7月6日			
第13回	プランニング①	実際にテーマに沿って結婚式をプランニングする	7月13日			
第14回	プランニング②	実際にテーマに沿って結婚式をプランニングする	7月20日			
第15回	新規接客を受ける	1年生の新規接客をお客様役として接客を受ける・振り返り	9月7日			
	-	<del></del>				

## 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0		0	0		30	秀 (S):100点~90点
小テスト		0	0				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度	0		0	0	0		20%	可 (D):69点~60点
発表•作品								不可(E):59点以下
演習	0	0	0	0	0		30	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ブライダル広告研究	単位数	1	科目コード				
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界で大きく費用のかかる宣伝広告費を理解しながら、マーク	ブライダル業界で大きく費用のかかる宣伝広告費を理解しながら、マーケティング手法を学びリアルウェディングのリーフを作成する事で集客につなげる。						
授業の一般目標	宣伝広告費を理解する。ビジネスフレームワークを理解する。リーフ作りに必要なキャッチコピーの作り方を理解する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる						
□ 関心・意欲の観点	ブライダル業界の広告について関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□ 態度の観点	ブライダル業界の広告について主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点								
	1							

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

# 授業計画(授業単位)

0	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	ブライダル業界の広告宣伝費を理解する	ブライダル業界の広告宣伝費はどのくらいかかるのか?大手企業の広告宣伝費を参考に売り 上げから広告宣伝費の割合を知る	
第2回	広告と宣伝の違いを理解する	広告と宣伝の違いを理解し、どのように広告宣伝をしていけばリアルウェディングの顧客を集 客できるかブレストディスカッションを行う	
第3回	環境やサービス内容を分析する①	身近な題材を用いてSWOT分析を理解する	
第4回	環境やサービス内容を分析する②	SWOT分析を理解し現在の取り巻く環境やリアルウェディングの強み弱みを改めて分析する	
第5回	顧客について分析する①	身近な題材を用いてペルソナを理解し顧客を分析する	
第6回	顧客について分析する②	リアルウェディングを希望する顧客はどのような顧客かペルソナを用いて分析する	
第7回	企業研究②	あらゆる企業の有名なキャッチコピーを知り、キャッチコピーの考え方作り方を学ぶ	
第8回	キャッチコピーを考える②	実際に例題を用いてキャッチコピーを作成する	
第9回	テキスト構成を考える	見やすいフォント、テキストの構成を学ぶ	
第10回	リーフ作成のための素材集め	リーフ作成に必要な素材を集める	
第11回	リーフ作成のための素材集め	リーフ作成に必要な素材を集める	
第12回	リアルウェディングリーフの作成	リーフ作成	1月0日
第13回	リアルウェディングリーフの作成	リーフ作成	
第14回	リアルウェディングリーフの作成	リーフ作成	
第15回	リアルウェディングリーフの作成	リーフ作成	

## 成績評価方法

		知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		0	0					50	S(4):90点以上
小テスト		0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レ	ポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度				0				10	C(1):60点以上
発表·作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習								評価なし	
出席				0				欠格条件	
担当教員		國定	章子		実務経験紹介				

科目名	インターンシップ I	単位数		科目コード				
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。							
授業の一般目標	1. 自らの専攻やキャリアに関連した就業体験によって高い職業意識を育成する 2. 実社会に触れる事によって学習意欲を向上させる 3. 人間性を高め、基本的な生活習慣を身に付ける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	ブライダル業務全般を説明できる							
□ 思考・判断の観点	結婚式や披露宴において必要な準備や手順がわかる							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる							
□ 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点								

基本的な知識を修得し応用に発展する

#### 授業計画(授業単位)

•	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	実務研修の心構え	インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を 行なう。	
第2回	実務研修の依頼	就職を希望する企業・サロンの調査法。インターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、企業等とのマッチング、日程調整	
第3回	挨拶状・レポート作成	受け入れ企業の決定に基き必要書類などの作成を行いインターンシップを有意義なものにす る	
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回	ch 787 TT Mr	受入れ事業所で就業体験(実習日誌)	
第9回	- 実務研修		
第10回			
第11回			
第12回			1月0日
第13回			
第14回	Λ h λ ≥ = ± ± t h Λ	インターンシップを通じて得た知見や経験を受講者全員で共有化することを目的に体験報告を	
第15回	- インターンシップ報告会	行なう。それぞれが就業体験を通じて得たものを自己定着させる。また、体験報告をレポート にまとめ、インターンシップ報告書を作成する。	

# 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート	0	0	0	0			30	B(2):70点以上
授業態度			0	0			15	C(1):60点以上
発表•作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習	0	0	0				55	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	インターンシップ Ⅱ	単位数	2	科目コード				
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験 特定等) 告をレポートにまとめ、報告書を作成する。							
授業の一般目標	1. 自らの専攻やキャリアに関連した就業体験によって高い職業意識を育成する 2. 実社会に触れる事によって学習意欲を向上させる 3. 人間性を高め、基本的な生活習慣を身に付ける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	ブライダル業務全般を説明できる							
□ 思考・判断の観点	結婚式や披露宴において必要な準備や手順がわかる							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる							
□態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点								

基本的な知識を修得し応用に発展する

## 授業計画(授業単位)

П	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	実務研修の心構え	インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を 行なう。	
第2回	実務研修の依頼	就職を希望する企業・サロンの調査法。インターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、企業等とのマッチング、日程調整	
第3回	挨拶状・レポート作成	受け入れ企業の決定に基き必要書類などの作成を行いインターンシップを有意義なものにする	
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回	実務研修	受入れ事業所で就業体験(実習日誌)	
第9回	<b>大扮</b> 如修		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回	インターンシップ報告会	インターンシップを通じて得た知見や経験を受講者全員で共有化することを目的に体験報告を 行なう。それぞれが就業体験を通じて得たものを自己定着させる。また、体験報告をレポート	
第15回	- インブーンンツノ報音芸	行なう。それぞれか就業体験を通じて得たものを自己定着させる。また、体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。	

# 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。

	知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート	0	0	0	0			30	B(2):70点以上
授業態度			0	0			15	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習	0	0	0				55	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	色彩学 I	単位数	1	科目コード	_			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	要 色は生活の様々な分野にかかわっている。色彩に関する基本的なことを学習し人の心理面にどのような働きかけをすりのかを知り効果的に使用していく。色の分類・効果・演出と体系的に学習していく。							
授業の一般目標 テキストやカラーチャートなどを使用して色彩の分類・効果的な選択ができるようになる。パーソナルカラー分析を行い目安としてパーソナルカラー検定3級を受験する。さらにブライダルにおいて会場やテーブル・衣裳などの選択の選択の悪性を磨く								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	パーソナルカラー検定公式テキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	÷3						
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる						
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	パーソナルカラー検定3級に合格できる							

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

## 授業計画(授業単位)

<b>D</b>	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	色彩学とは	色彩学を学ぶ意義について	
第2回	四季の自然を表わす色	春/夏/秋/冬に関わる色について	
第3回	日本の色の歴史	特徴的な伝統色	
第4回	色と生活	周りを取り巻く様々な色、衣食住	
第5回	色の種類	赤・橙・黄・緑・青・紫・白黒・グレー系統	
第6回	色の仕組み	物体色と光源色、無彩色と有彩色	
第7回	企業研究②	カラーアンダートーンシステム	
第8回	色の三属性と対比現象	明度·彩度·色相	
第9回	色の感情効果	明度・彩度・色相に関する心理効果	
第10回	cus配色効果	アンダートーンとは	
第11回	ファッション概論	基本的な配色テクニック	
第12回	ブライダルと色彩	ウエディングと配色調和	1月0日
第13回	パーソナルカラー	肌色のしくみ	
第14回	パーソナルカラーの特徴	人の特徴によるアンダートーン パーソナルカラー	
第15回	検定対策	パーソナルカラー3級検定試験対策	

# 成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表•作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	色彩学Ⅱ							
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等) 色は生活の様々な分野にかかわっている。色彩に関する基本的なことを学習し人の心理面にどのような働きかけをすりのかを知り効果的に使用していく。色の分類・効果・演出と体系的に学習していく。								
授業の一般目標	授業の一般目標 テキストやカラーチャートなどを使用して色彩の分類・効果的な選択ができるようになる。パーソナルカラー分析を行い目安として配色検定2級を受験する。さらにブライダルにおいて会場やテーブル・衣裳などの選択の選択の選択の悪性を磨く							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	色彩配色テキストⅡ							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	÷3						
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる						
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
□技能・表現の観点								
선생님도(스타)	1							

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

## 授業計画(授業単位)

D	主 題	授業内容	備考
第1回	色彩学Iの復習	色彩学とは、CUSとは	
第2回	配色 Basic①	色相配色(同系・類系・反対)	配色練習①
第3回	配色 Basic②	色調配色(同系・類系・反対)	配色練習②
第4回	配色 Advance①	色相色調配色(2色・3色)	配色練習③
第5回	配色 Advance②	色相色調配色(4色・5色)	配色練習④
第6回	配色 Advance③	色相色調配色(6色)	配色練習⑤
第7回	企業研究②	アンダートーン配色	配色練習⑥
第8回	配色のテクニック	グラデーション・コントラスト・アクセント・リズム・バランス	配色練習⑦
第9回	イメージと配色	色とことばとイメージ表現・配色	配色練習⑧
第10回	プロデュース①	お互いを分析し配色提案	配色練習⑨
第11回	プロデュース②	相手から出されたテーマに沿った配色を提案	配色練習⑪
第12回	トータルイメージ①	空間配色・演出	
第13回	トータルイメージ②	人と空間の配色・演出(テーブル・ドレスでの演出)①	
第14回	トータルイメージ③	人と空間の配色・演出(テーブル・ドレスでの演出)②	実技
第15回	期末テスト	色彩学Ⅱ試験、質疑応答	

## 成績評価方法

	知識•理解	思考•判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介			•	

科目名	ブライダルヘアメイク	科目コード						
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象 -						
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	婚礼における洋装と和装の際のメイクの違いについて学び、また限られた時間内でいかにアレンジの幅を広げることができるか実践を通し学ぶ。							
授業の一般目標	ブライダルにおけるヘア・メイクなどの知識や技術を習得する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる						
□ 関心・意欲の観点	ブライダルヘアメイクに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□ 態度の観点	日常生活の中でブライダルヘアメイクについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	限られた時間内で、幅広いアレンジができる							

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

# 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	トータル・ヘアーメイク	授業に必要なアイテムチェック・技術チェック・相モデルで骨格やパーツなどの補正	ヘアアレンジで使用した一式 メイク道具一式 持参
第2回	トータル・ヘアーメイク	相モデル30分フルメイク カウンセリングとアップスタイル2パターン	
第3回	トータル・ヘアーメイク	相モデル30分フルメイク 和装と洋装のメイクの違い	
第4回	トータル・ヘアーメイク	相モデルで、前回とは違うペアーで、オーダー通りにヘアーメイクを仕上げる	
第5回	トータル・ヘアーメイク	相モデルで、前回とは違うペアーで和装のオーダー通りにヘアーメイクを仕上げる アテンドの知識	
第6回	トータル・ヘアーメイク	洋装から和装へのヘアメイクチェンジと衣装チェンジについて	
第7回	企業研究②	相モデルで、洋装→和装のヘアーメイクのクイックチェンジを行う	
第8回	トータル・ヘアーメイク	和装から和装へのヘアメイクチェンジと衣装チェンジについて	
第9回	トータル・ヘアーメイク	相モデルで、和装→洋装のヘアーメイクのクイックチェンジを行う	着付室実習
第10回	トータル・ヘアーメイク	衣装の似合わせとフィッティング	着付室実習
第11回	トータル・ヘアーメイク	ショー用へアメイクアレンジ①	着付室実習使用
第12回	トータル・ヘアーメイク	ショー用へアメイクアレンジ①	着付室実習使用
第13回	トータル・ヘアーメイク	相モデルの試験対策準備:衣裳とヘアメイクデザインを考える	着付室実習使用
第14回	トータル・ヘアーメイク	作品制作(相モデルで)	着付室実習使用
第15回	トータル・ヘアーメイク	作品制作(相モデルで)	着付室実習使用

#### 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 作品内容、準備姿勢、出席点を換算して総合評価を行う。

	知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			0				20	C(1):60点以上
発表·作品	0	0					50	D:59点未満 未修得
演習	0	0	0				30	
出席			0	0			欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイクアップ基礎	単位数	2	科目コード					
授業形態	実習 対象学生 1年生 開設期								
区分	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)									
日本メイクアップ技術検定3級の取得 授業の一般目標 スキンケア〜ペースメイクのテクニックを習得する セルフメイク、相モデルメイクができる									
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本メイクアップ技術検定3級・2級公式テキスト・メイク道具セット・(ウェ	ットティッシュ・綿棒・	BOXティッシュは各	自準備)					
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	る							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることがで	できる							
□ 関心・意欲の観点	メイク基礎に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる								
□ 態度の観点	日常生活の中でメイク基礎について主体的に考えることができる								
- + 4	表現の観点 1. 就職活動用メイク・プランナーメイクなど場面に応じたセルフメイクができる 2. プランナーメイクを相モデルに対してできる								

#### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1週	オリエンテーション	授業の注意事項 道具の点検 授業の目標 セッティング 身だしなみ	テキスト・メイク道具を 取りに行く 4月11日
第2週	道具の置き方 ポイントクレンジング	道具セッティング ポイントクレンジング練習	4月18日
第3週	全体クレンジング~乳液	ポイントクレンジング復習 全体クレンジング~乳液	4月25日
第4週	スキンケア通し練習	スキンケア通し ベースメイク理論	5月9日
第5週	ベースメイク実習	コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラ・フェイスパウダー	5月16日
第6週	チーク ローライト ハイライト	チーク ローライト ハイライト実習	5月23日
第7週	企業研究②	コットンパック 乳液マッサージ 3級通し	5月30日
第8週	タイム計測 チークのバリエーション	3級通し チークのパリエーションについて	6月6日
第9週	タイム計測 アイブロウ基礎 アイメイク基礎 リップ	3級通し アイブロウについて アイメイク・リップ基礎(模擬試験)	オンデマンド配信 6月13日
第10週	日本メイクアップ技術検定3級試験	日本メイクアップ技術検定3級試験	校内にて実施 6月20日
第11週	プランナーメイク	プランナーヘアメイク ビューティスペシャリスト科2年生 ヘアメイク	6月27日
第12週	就活メイク	就活メイクのポイント メイクレッスン ビューティスペシャリスト科2年生 ヘアメイク	7月4日
第13週	期末レッスン	就活メイクを相モデルでポイント練習 プランナーメイク相モデル	7月11日
第14週	学期末試験	ブライダル業界にあわせたメイク プランナーメイクヘア	7月18日
第15週	オンデマンド締め切り日	プランナー就活メイク (スーツ、夜会巻き、セルフメイク)	

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0				0		70	S(4):90点以上
小テスト(模擬テスト)	0		0		0		10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	0			0	0		10	B(2):70点以上
授業態度		0	0	0	0		10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

		1	I	I					
科目名	メイクセラピー	単位数	2	科目コード					
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期				
区分	必修	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象 有							
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	花嫁様の披露宴での心理的なストレスを和らげるメイクセラピーの技術を身につける。								
授業の一般目標	メイクセラピスト2級合格を目指し、セラピストの知識として花嫁様に傾聴・アドバイスができる								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	f 8							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる							
□ 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる								
□ 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる								
□技能・表現の観点									
恒業計画(合体)	1								

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

# 授業計画(授業単位)

0	主 題	授 集 内 容	備考
第1週	メイクセラピーの意味	オリエンテーション	
第2週	メイクセラピーにおける顔の成り立ち	円心·求心	
第3週	メイクセラピーにおける顔の成り立ち	円心・求心が他人から見た時の印象	
第4週	自分の顔分析	相モデルにて顔の分析	
第5週	アイシャドーなどの使い方	円心・求心をどのように矯正するか	
第6週	カラーが人に与える印象	色の効果や光の効果	
第7週	企業研究②	カラーが人に与える印象、その使い方	
第8週	印象分析	印象をコントロールし自分のコンプレックスを克服する	
第9週	傾聴の意味	クライアントの話の聴き方。その動作や実際の動き	
第10週	心理学の基本的な知識	罪悪感など人間の心理を学び、クライアントの軽重ができる	
第11週	リップやチーク、アイシャドウの色の持つ効果	リップ・アイシャドー・チークなど色の使い方で印象管理	
第12週	メイク実習	メイクセラピーの実習(メイク)	1月0日
第13週	メイク実習	メイクセラピーの実習(メイク)	
第14週	試験直前模試	筆記とメイク実習	
第15週	期末試験	全体の期末試験	

#### 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員	福本	真弓		実務経験紹介				

科目名	ヘアアレンジ	単位数	1	科目コード							
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期						
区分	必修	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象 -									
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	受業概要 目的、目標とする資格・検定等) 日本の主義を対象を表現している。 また、新婦様のヘアスタイルについていくつかのパターンを習得しご提案可能となるよう、技術を習得する。 ウィッグ使用の実技中心となる。										
授業の一般目標	標就職活動~卒業後の現場でのセルフへアセット技術の習得。及び、新婦へアスタイルの基本を習得										
受講条件	出席率80%以上が前提となる。										
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト不要・別途へア小物必須										
授業の到達目標											
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明で	きる									
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる									
□ 関心・意欲の観点	ヘアアレンジに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる	ヘアアレンジに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる									
□ 態度の観点	日常生活の中でヘアアレンジについて主体的に考えることができる										
= H // +===	この観点 セルフで夜会巻きができる・対人に対してヘアアレンジができる										

## 授業計画(授業単位)

<b>•</b>	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	基礎知識・夜会巻きデモンストレーション	道具類の配布 道具類の種類と使用法・頭部の名称・黒ゴムの前準備・ブラッシング・一束 ウィッグを使用した夜会巻きのデモンストレーション	
第2回	身だしなみの為のアップスタイル	自分で出来るアップスタイル・夜会巻き・ブロッキング	
第3回	身だしなみの為のアップスタイル	自分で出来るアップス・タイル・夜会巻き・ブロッキング	
第4回	基礎技術 (基礎1)	基本の毛束の持ち方と指使いを習得・表編み・裏編み ローブ編み・フィッシュポーン	
第5回	基礎技術 (編み込み)	各セクションより髪をすくい取り編み込んでいく・片側表三つ編み込み 両側編み込み・サイドのまとめ方	
第6回	基礎技術 (基礎2)	各セクションより髪をすくい取り編み込んでいく・片側表三つ編み込み 両側編み込み・ネープのまとめ方・アイロン	
第7回	企業研究②	全体のまとめ方・アイロンの使い方・アイロンの巻き方	
第8回	基礎技術 (基礎4)	全体のまとめ方・ホットカーラーの巻き方	
第9回	応用技術1	アレンジ1	
第10回	応用技術2	アレンジ2	
第11回	応用技術3	アレンジ3	
第12回	応用技術4	アレンジ4	↓
第13回	アップスタイルの作製	自分でデザインしてアレンジする1	衣装や髪質にあわせてデザイン
第14回	アップスタイルの作製	自分でデザインしてアレンジする2	衣装や髪質にあわせてデザイン
第15回	期末テスト	ヘアアレンジテスト	

# 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 作品内容、準備姿勢、出席点を換算して総合評価を行う。

	知識・理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0			0		60	S(4):90点以上
小テスト	0				0		10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度	0		0	0			30	C(1):60点以上
発表•作品								D:59点未満 未修得
演習								
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス基礎 I	単位数	1	科目コード							
授業形態	講義 対象学生 1年生 開設期										
区分	必修	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象									
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)											
授業の一般目標	秘書検定3級(6月受験)の合格。ビジネスパーソンとしての最低限のマ	ナーを身に付ける。									
受講条件	出席率80%以上が前提となる。										
事前学習について (テキスト・参考書等)	秘書検定実問題集3級										
授業の到達目標											
□ 知識・理解の観点	秘書検定3級合格の知識を習得										
□ 思考・判断の観点	秘書業務を学んだうえで社会人としてどのように活用できるか判断できる	秘書業務を学んだうえで社会人としてどのように活用できるか判断できる									
□ 関心・意欲の観点	ビジネススキルを理解した上で模擬挙式に活用する事が出来る										
□態度の観点											
□技能・表現の観点											

基本的な知識を修得し応用に発展する

## 授業計画(授業単位)

0	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	検定の概要	授業の進め方 検定概要の確認	
第2回	必要とされる資質 秘書の心構え 必要な条件	秘書業務の心構え・身だしなみ・第一印象 心遣い、守秘義務、社内連絡、社外連絡	
第3回	職務知識 秘書の役割と機能 職務	秘書の分類 心構え 定型業務	
第4回	一般知識 企業の基礎知識	企業の目的 会社の形態と会社の種類 組織と機能 経営管理	
第5回	企業の組織と活動	人事 労務 会計 財務 マーケティング	
第6回	社会常識	基礎用語 上位s機としての片仮名語	
第7回	企業研究②	人間関係と話し方 人間関係の重要性 挨拶 話し方と人間関係	
第8回	話し方聞き方の応用	話し方聞き方の応用 情報伝達の仕方 報告の仕方	
第9回	電話応対	電話応対 電話のマナーと話し方の注意点	
第10回	接遇	接遇の心構え アポイント調整 受付マナー 案内マナー	
第11回	交際	慶事の知識とマナー 食事のマナー	
第12回	会議と秘書	会議の目的と種類 会議の種類	
第13回	ビジネス文書と秘書	社内文書の基礎知識 種類と形式 慣用表現 文書管理	
第14回	資料管理	ファイリングの基礎知識 名刺の整理 日程管理	
第15回	日程管理 オフィス管理	日程管理と予定表 予定表の作成	

## 成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス基礎Ⅱ	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義 対象学生 1年生 開設期								
区分	必修 開設時期 後期 教員実務経験対象								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容かを学ぶ。								
授業の一般目標	目標 秘書検定2級(1月受験)の合格。ビジネスパーソンとしての最低限のマナーを身に付ける。								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)	秘書検定実問題集2級								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	秘書検定2級合格の知識を習得								
□ 思考・判断の観点	秘書業務を学んだうえで社会人としてどのように活用できるか判断できる	5							
□ 関心・意欲の観点	ビジネススキルを理解した上で模擬挙式に活用する事が出来る								
□ 態度の観点									
□技能・表現の観点									

基本的な知識を修得し応用に発展する

## 授業計画(授業単位)

按未計画(抗	《未甲位》		
	主 程	授 業 内 容	備考
第1回	3級試験範囲の復習	3級試験範囲の復習	
第2回	3級試験範囲の復習	3級試験範囲の復習	
第3回	模擬試験実施	過去問の実施	
第4回	必要とされる資質	秘書の心構え 秘書に必要な条件	
第5回	職務知識	秘書の役割と機能 秘書の職務	
第6回	一般知識 企業と経営	資本と経営 企業の組織形態 経営管理	
第7回	企業研究②	人事労務 会計財務 手形小切手 税務 生産管理	
第8回	社会常識	情報処理とニューメディア 常識としての基礎用語略語カタカナ語	
第9回	マナー 接遇	人間関係と話し方・聞き方 基礎応用	
第10回	電話応対と接遇 交際	電話応対の基本 接遇用語の使い方 慶事の対応 パーティ等の知識	
第11回	会議と秘書	会議の知識 準備設営 会議中の秘書の仕事	
第12回	ビジネス文書の作成 文書の取り扱い	社内文書の種類と形式 社交文書 ビジネス文書の慣用句 メモの取り方	1月0日
第13回	文書 資料管理	ファイリングの基本 保管方法 名刺の整理 情報収集と管理	
第14回	日程管理とオフィス管理	予定表の種類と記入要項 事務用品の種類	
第15回	模擬試験の実施	秘書検定2級の過去問実施	

## 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

	T	T		T	T					
科目名	硬筆書写 I	硬筆書写 I 単位数 1 科目コード								
授業形態	講義 対象学生 1年生 開設期 半									
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-					
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)  ブライダル業界で必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書くことが出来るようになる。また就職活動時に正しい字で履歴書が書けるようになる。6月に硬筆書写検定3級合格を目指す。										
授業の一般目標	社会人として恥ずかしくない字が書ける具体的な尺度になる硬筆書写材	食定3級合格にむけ	た学び							
受講条件	出席率80%以上が前提となる									
事前学習について (テキスト・参考書等)	ペン習字ハンドブック・3級合格のポイント(令和3年度版)/ 0.5ゲル・	インクボールペン・沿	由性マジック・定規・注	シャーペン・消しゴム・E	35サイズ無地レポート用紙					
授業の到達目標										
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	る								
□ 思考・判断の観点	学んだことを踏まえ、自ら考え判断することが出来る									
□ 関心・意欲の観点	どんな字でも美しく書くために関心を広げ、問題意識を高めることが出来る									
□ 態度の観点	説明をよく聞き、落ち着いて取り組めることが出来る									
□ 技能・表現の観点	授業で伝えている内容を明確に表現できる									
			<u> </u>		<u> </u>					

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

# 授業計画(授業単位)

<u> </u>	主題	授 業 內 容	備考
第1回	オリエンテーション・文字の基礎・基本 ①	美しい文字を書く基本を学ぶ。 用具、テキスト、ドリルの活用方法、学習計画が理解できる	4月15日
第2回	文字の基礎・基本 ②	楷書について	4月22日
第3回	文字の基礎・基本 ③	平仮名・片仮名について①	5月13日
第4回	文字の基礎・基本 ④	平仮名・片仮名について②	5月20日
第5回	文字の基礎・基本 ⑤	速書き・横書きの書き方	5月27日
第6回	文字の基礎・基本 ⑥	行書について	6月6日
第7回	企業研究②	縦書き・葉書宛名書きの書き方	6月10日
第8回	硬筆書写 3級検定試験	検定試験	6月17日
第9回	添え状・履歴書・お礼状の作成 ①	就職活動・インターンシップに向けた実践演習	6月24日
第10回	添え状・履歴書・お礼状の作成 ②	就職活動・インターンシップに向けた実践演習	7月1日
第11回	添え状・履歴書・お礼状の作成 ③	就職活動・インターンシップに向けた実践演習	7月8日
第12回	添え状・履歴書・お礼状の作成 ④	就職活動・インターンシップに向けた実践演習	7月22日
第13回	添え状・履歴書・お礼状の作成 ⑤	就職活動・インターンシップに向けた実践演習	8月13日
第14回	総復習	授業で学んだことに対する総復習	9月2日
第15回	前期期末試験	期末テスト	9月9日

# 成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0			0		20	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	0		0				20	B(2):70点以上
授業態度			0	0			30	C(1):60点以上
発表・作品(検定試験結果)	0	0			0		30	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	硬筆書写Ⅱ	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界で必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書く とが出来るようになる。2月に準2級の硬筆書写検定2級合格を目指す								
授業の一般目標	<b>硬筆書写3級合格。美しい文字を書〈基本を学ぶ。</b>								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる	5							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる								
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる								
□技能・表現の観点									

基本的な知識を修得し応用に発展する

### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	はがきの宛名書き	けいの無いはがきにそれぞれの部分、書く位置、文字の大きさ、行間を考え宛名を書くことが できる	3級の学習
第2回	掲示を書く	適当な大きさの字で位置や行間の空き等全体から見た構成に注意し、体裁よく掲示を書くこと ができる	3級の学習
第3回	漢字の部分の名称	漢字を構成している名称を理解する	3級の学習
第4回	常用漢字の筆順	常用漢字全般の筆順を覚えることができる	3級の学習
第5回	草書を読む	平易な草書体の漢字を読むことができる	3級の学習
第6回	常用漢字の字体	誤字と不適当な字を指摘し、正しく書き留めることができる	3級の学習
第7回	企業研究②	添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する	
第8回	添え状、履歴書、お礼状の作成①	添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する	
第9回	速書き	一定の時間内に、一定の文章を美しく正しく書き終える事ができる	2級の学習
第10回	漢字(楷・行)を大きく書く	漢字の楷書と行書の基本を理解し書くことができる	2級の学習
第11回	縦書き(漢字と仮名交じり文)	ポールペン・サインペンで45字ほどの漢字仮名交じり文を、行の幅1.7センチの縦けいのある ところに行書で書くことができる	2級の学習
第12回	横書き(漢字仮名交じり文)	片仮名、数字、ローマ字が混ざっている60字ぐらいの文を、感じは楷書で、数字やローマ字は 似合うもので横書きで書くことが出来る	1月0日
第13回	漢字の部分の名称	漢字を構成している名称を理解する	2級の学習
第14回	常用漢字の筆順	常用漢字全般の筆順を覚えることができる	2級の学習
第15回	模擬試験の実施	過去間の実施	2級の学習

# 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表•作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	サービス接遇 I	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象					
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	概要 目標とする資格・検定等) ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。								
授業の一般目標	ブライダル業界で働く楽しさを新郎新婦のコーディネートなどから感じ取り、それをサポートする接客力を習得する。 就職活動や社会人にスムーズになれる言動を身につける。サービス接遇3級(6月受験)準1級(11月受験)2級合格(1月受験)を目標とする。								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	<b></b>							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる								
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる								
□ 技能・表現の観点									

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と検定要項の確認	
第2回	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件が理解できる	
第3回	専門知識	サービスの意義、機能、種類を理解する 商業用語、経済用語が理解できる	
第4回	一般知識	社会常識、時事問題が理解できる	
第5回	対人技能	一般的な人間関係や対人心理、マナーが理解できる	
第6回	対人技能	接遇用語を理解し基本的な話し方ができる 提示説明の仕方が理解できる	
第7回	企業研究②	問題処理、環境整備、金品管理について理解できる	
第8回	過去問題実施 模擬試験の実施	サービス接遇検定3級の過去問を実施	
第9回	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件が備えており判断、表現ができる	
第10回	専門知識	サービスの意義、機能、種類を理解する 商業用語、経済用語が理解できる	
第11回	一般知識	社会常識があり、時事問題が理解できる	
第12回	対人技能	一般的な人間関係や対人心理、マナーを理解し表現、実行することができる	
第13回	対人技能	接遇用語を知っており接遇者としてのな話し方ができる 提示説明ができる	
第14回	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理について理解し、対処ができる	
第15回	期末試験の実施	期末試験の実施	

### 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	サービス接遇Ⅱ	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象					
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。								
授業の一般目標	ブライダル業界で働く楽しさを新郎新婦のコーディネートなどから感じ取り、それをサポートする接客力を習得する。 就職活動や社会人にスムーズになれる言動を身につける。サービス接遇3級(6月受験)、2級(1月受験)準1級(12月受験)を合格目標とする。								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	÷3							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる								
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる								
□ 技能・表現の観点	支能・表現の観点								
□ 技能・表現の観点									

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

### 授業計画(授業単位)

0	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と検定要項の確認	準1級試験対策
第2回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本言動(言葉使い、所作)ができる	準1級試験対策
第3回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本言動(言葉使い、所作)ができる	準1級試験対策
第4回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本応対ができる	準1級試験対策
第5回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本応対ができる	準1級試験対策
第6回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本対応ができる	準1級試験対策
第7回	企業研究②	接遇者としての基本対応ができる	準1級試験対策
第8回	接客ロールプレイング	模擬面接実施	準1級試験対策
第9回	接客ロールプレイング	模擬面接実施	準1級試験対策
第10回	2級対策授業	2級試験範囲復習	2級試験対策
第11回	2級対策授業	2級試験範囲復習	2級試験対策
第12回	模擬試験	検定試験直前対策、2級合格のポイントを押さえる	0
第13回	模擬試験	検定試験直前対策、2級合格のポイントを押さえる	2級試験対策
第14回	サービス接遇検定答え合わせ	2級試験範囲復習	
第15回	期末試験実施	期末試験実施	

### 成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	プレゼンテーション・ディベート学 I	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。 プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話してなどの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。								
授業の一般目標	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得しる。	、、さまざまな場面で	自分の考えをしった	いり相手に伝える積極的	りな意思表現ができるように				
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	₹ <b>る</b>							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる							
□ 関心・意欲の観点	プレゼンテーションに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる	5							
□ 態度の観点	日常生活の中でプレゼンテーションについて主体的に考えることができ	日常生活の中でプレゼンテーションについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点									

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

# 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの種類と定義について	
第2回	コミュニケーションとプレゼンテーション	コミュニケーションとプレゼンテーションの違いについて	
第3回	プレゼンテーションの目的	紹介のプレゼンテーション	
第4回	プレゼンテーション準備と流れ1	聞き手の分析や目的の明確化	
第5回	プレゼンテーション準備と流れ2	プラン作成やツールについて	
第6回	聴衆に好感を持たれる話し方の基本	聴衆に好感を持たれる話し方の基本を学ぶ	
第7回	企業研究②	聴衆に好感を持たれる態度、演出法	
第8回	ノンバーバル表現	聴衆に好感を持たれる態度、演出法	
第9回	身近なプレゼンテーション	スピーチ・フリートーク	
第10回	ディベート理論	インタビューをしてみよう	
第11回	ディベート基礎	会議と司会をしてみよう	
第12回	ディベート基礎	学校生活について話してみよう	1月0日
第13回	ディベート演習	グループワーク	
第14回	発表に向けてのリハーサル		
第15回	プレゼンテーション発表と振り返り		

### 成績評価方法

		知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		0	0					50	S(4):90点以上
小テスト		0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レ	ポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度				0				10	C(1):60点以上
発表·作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習								評価なし	
出席				0				欠格条件	
担当教員 國定 章子			実務経験紹介	http	os://www.yic-ky	oto-beauty.ac	.jp/voice/kunisada/		

科目名	プレゼンテーション・ディベート学Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等) プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。 プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話しなどの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。								
授業の一般目標	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得しる。	、さまざまな場面で	自分の考えをしっか	り相手に伝える積極的	内な意思表現ができるようにな			
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	÷3						
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる						
□ 関心・意欲の観点	プレゼンテーションに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□態度の観点	日常生活の中でプレゼンテーションについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点								

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	コミュニケーションとプレゼンテーション	1年後期の振り返り 模擬披露宴に向けてのプレゼン準備	
第2回	コミュニケーションとプレゼンテーション	模擬披露宴に向けてのプレゼン準備	
第3回	課題のプレゼンを行う	再構築したプレゼン発表を	
第4回	発表したプレゼンのフィードバック	プレゼンのフィードバック 課題への取り組み	
第5回	ディベートとは?	ディベートの考え方、定義	
第6回	ディベートの方法	議論の設定、持論の整理	
第7回	企業研究②	知識の収集方法、考え方や話し方	
第8回	ディベート力を生かす	どの様な場面で生かせるのか	
第9回	ディベート実習	「今後日本の結婚式は無くなっていく」	
第10回	ディベート実習	「今後日本の結婚式は無くなっていく」	
第11回	ディベート実習	「日本は救急車を有料化するべきである」	
第12回	ディベート実習	「日本は救急車を有料化するべきである」	
第13回	ディベート実習	自らが現代社会において必要なテーマを探求し、討論する	
第14回	ディベート実習	自らが現代社会において必要なテーマを探求し、討論する	
第15回	期末テスト	1から14回目の内容で期末テスト実施	

### 成績評価方法

	知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	英会話基礎	単位数	1	科目コード				
授業形態	誰 義	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)								
授業の一般目標	英語で接客の基本的な会話が行えるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	接客でよく使用す英単語やフレーズを覚える事ができる							
□ 思考・判断の観点	知っている英単語を使って会話を考えたり、作ったりする事ができる							
□ 関心・意欲の観点	英会話に関する関心を広げ、自らすすんで話してみる事ができる							
□ 態度の観点	日常生活の中で英語について主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	・表現の観点 自己紹介や基本の接客を英語で行えるようになる							
□ 技能・表現の観点 目己紹介や基本の接答を英語で行えるようになる 授業計画(全体)								

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

### 授業計画(授業単位)

0	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要説明・確認テスト	
第2回	自分について話す	中学や高校で習った英語を使って、自己紹介してみる	
第3回	基本表現①	出会いや別れの挨拶・問いかけの表現	
第4回	基本表現②	お礼やお詫び・あいづち・わからない時の表現	
第5回	基本表現③	ホテルや飲食店、結婚式場の職種・施設・設備などの単語を覚える	
第6回	接客英会話	声をかける・場所をご案内する	確認小テスト
第7回	企業研究②	商品をお勧めする・注文を受ける	
第8回	接客英会話	依頼をするフレーズ	
第9回	接客英会話	日付や時間に関するヒアリング・案内の表現	確認小テスト
第10回	学校について話す	学校生活について英語で話してみる	
第11回	接客英会話	アルバイト先に外国人が来た時の会話を考えて英語にしてみる	
第12回	自己PR英語	自己PRを作ってみる	1月0日
第13回	自己PR英語	自己PRスピーチを英語で行う	
第14回	総復習	接客でよく利用する単語やフレーズの総復習を行う	
第15回	期末テスト		

# 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能•表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					40	秀 (S):100点~90点
小テスト	0		0				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート			0	0			10	良 (B):79点~70点
授業態度		0	0				10	可 (D):69点~60点
発表•作品	0	0	0	0	0		20	不可(E):59点以下
演習								
出席			0					
担当教員				実務経験紹介				

科目名	英会話応用	単位数	1	科目コード			
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ビジネス英語基礎で学んだ知識を応用し、接客時に英語応対が可能となることを目指す。 <sup>資格・検定等)</sup>						
授業の一般目標	英語応対能力検定B級C級取得。海外の参列者や新郎新婦に対しても多	英語で接客できるス	キルを学ぶ。				
受講条件	出席率80%以上が前提となる。						
事前学習について (テキスト・参考書等)	接客英会話ワークブック 基礎編						
授業の到達目標							
□ 知識・理解の観点	ブライダル業界用語やフレーズの英語を覚え、使用する事ができる						
□ 思考・判断の観点	覚えた英単語を使って接客の会話を考えたり、作ったりする事ができる						
□ 関心・意欲の観点	ブライダル業界用語の英話に関する関心を広げ、自ら進んで話してみる事ができる						
□ 態度の観点	日常生活の中でブライダルの英会話について主体的に考えることができる						
□ 技能・表現の観点	の観点 英語でのご案内やセールスを行えるようになる						

基本的な接客英語の知識を修得し実践に対応出来るようにする

### 授業計画(授業単位)

0	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション 接客英会話の復習	授業概要の説明	
第2回	Unit1 案内業務	売り場の場所や営業時間を答える	
第3回	Unit2 受付業務	受付対応 ホテルのやブライダルサロンでの応用	
第4回	Unit3 会計案内	金額提示や支払い方法を案内する	
第5回	Unit4 商品案内	商品の有無や特徴を表現できる	
第6回	Unit5 飲食店	注文を受ける、席の予約を受ける	
第7回	企業研究②	写真の撮影の依頼を受ける ブライダルシーンでの写真撮影時の英語表現	
第8回	Unit7 まちかど2	観光名所を案内する 京都の観光名所について	
第9回	Unit8まちかど3 Unit9トラブルシューティング1	有名人にサインをもらう 落とし物を探す	
第10回	Unit1011 トラブルシューティング23	けが人の対応 クレーム処理	
第11回	Unit12トラブルシューティング4 Unit13スピーキングテスト対策1	注文の確認、商品の返品対応 地図を見て案内する	
第12回	Unit1415 スピーキングテスト対策23	イベントの案内をする 免税について	1月0日
第13回	ホテルのおもてなし英会話	最上級のホスピタリティを伝えるホテル英語の基本表現を確認する	
第14回	洗練された大人の英語表現	日本文化のキーワード(歌舞伎、花見、茶道、和菓子、酒など)	
第15回	期末テスト		

### 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

成績評価基準 知識・理解 思考·判断 関心・意欲 評価割合 態度 技能·表現 その他 定期試験 0 0 秀 (S):100点~90点 小テスト 0 0 0 0 0 20 優 (A):89点~80点 宿題授業外レポート 0 0 良 (B):79点~70点 0 0 0 20 可 (D):69点~60点 授業態度 0 0 発表·作品 不可(E):59点以下 評価なし 演習 評価なし 出席 0 欠格条件 担当教員 実務経験紹介

	_		,		,			
科目名	観光英語 I	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)								
授業の一般目標	観光英語検定3級合格 観光業において必要な英語表現を身につけ現場で対応できる深い学びを得る							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	旅行・観光に必用な英語の知識を説明できる							
□ 思考・判断の観点	ホテル業界ならではのホスピタリティを観光のお客様にも応用ができる							
□ 関心・意欲の観点	授業で取り上げた各領域について学んだことを理論的に述べることができる							
□ 態度の観点	日常生活の中で英語について主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	長現の観点 観光英語で必要な基本の英語を身につけ							
授業計画(全体)	1							

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要説明	
第2回	基本語句・文法①	観光英語検定試験に必用な基本的な語句・文法を学ぶ	
第3回	基本語句•文法②	観光英語検定試験に必用な基本的な語句・文法を学ぶ	
第4回	基本語句・文法③	観光英語検定試験に必用な基本的な語句・文法を学ぶ	
第5回	よく使われる英語表現・語句①	検定出題に当たり必須な英語表現や語句を学ぶ	
第6回	よく使われる英語表現・語句②	検定出題に当たり必須な英語表現や語句を学ぶ	
第7回	企業研究②	検定出題に当たり必須な英語表現や語句を学ぶ	
第8回	ホテル編①	宿泊手続き コンシェルジュ 客室タイプについて	
第9回	ホテル編②	「旅館」「民宿」「登録カード」について	
第10回	航空・飛行機編①	空港・航空関連の用語 搭乗までの流れ	
第11回	航空・飛行機編②	税関申告 着陸と離陸 機内での会話 着陸・離陸について	
第12回	レストラン・飲食店編①	食事のスタイル「ランチ」や「ディナー」について	
第13回	レストラン・飲食店編②	レストランでの案内と支払い「チップ」制について	
第14回	まとめ 総復習		
第15回	期末テスト		

# 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能•表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀(S):100点~90点
小テスト								優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度								可 (D):69点~60点
発表·作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員		実務経験紹介			•			

科目名	観光英語Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	旅行の予約や手配、ホテルやレストランでの会話、地図の読み方など、旅行・観光に必要な英語表現を教授する。観光客に対する案内や説明、質問への回答な 6資格・検定等) 観光業において必要な英語表現を身につけさせる。さらに、観光客に対するホスピタリティや、トラブル対応などについても学び実践へと繋げる。							
授業の一般目標	観光英語検定3級合格 観光業において必要な英語表現を身につけ現場で対応できる深い学び	を得る						
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	旅行・観光に必用な英語の知識を説明できる							
□ 思考・判断の観点	ホテル業界ならではのホスピタリティを観光のお客様にも応用ができる							
□ 関心・意欲の観点	授業で取り上げた各領域について学んだことを理論的に述べることができる							
□態度の観点	日常生活の中で英語について主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点	能・表現の観点 観光英語で必要な基本の英語を身につけ							
授業計画(全体)								

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

### 授業計画(授業単位)

	主 題	授業内容	備考
第1回	● レッスン1: +B18:D32オリエンテーション	○ クラスのオリエンテーション○ 練習テスト	
第2回	● レッスン2: 項目073 - 082 概要	○ 空港·飛行機 編 part1	
第3回	● レッスン3: 項目073 - 082	○ 聴解○ 読解	
第4回	● レッスン4: 項目083 - 092 概要	○ 空港·飛行機 編 part2	
第5回	● レッスン5: 項目083 - 092	〇 聴解〇 読解	
第6回	● レッスン6: 項目093 - 099 概要	〇 レストラン・飲食店 編	
第7回	企業研究②	○ 聴解○ 読解	
第8回	● レッスン8: 中間テスト	○ 073 - 099 レビュー○ テスト	
第9回	● レッスン9: 項目100-104 概要	○ 交通機関(列車、地下鉄、バス、タクシー)編	
第10回	● レッスン10: 項目100-104	〇 聴解〇 読解	
第11回	● レッスン11: 項目105 - 113 概要	〇 ツアー情報 編	
第12回	● レッスン12: 項目105 - 113	○ 聴解○ 読解	
第13回	● レッスン13: 項目114 - 120 概要	〇料理編	
第14回	● レッスン14: 項目114 - 120	○ 聴解○ 読解	
第15回	● レッスン15: 最終テスト	○ 簡単なレビュー○ 期末テスト	

## 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能•表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀(S):100点~90点
小テスト								優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度								可 (D):69点~60点
発表•作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	担当教員			実務経験紹介				

科目名	ブライダル企業研究	単位数	1	科目コード							
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期						
区分	必修	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象									
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	婚礼会場はどのような場所にあるのか、そこではどのような仕事がある ブライダル・ホテル業界をプレ・当日、新生活部分に分けて様々な角度か			インターンシップの事前	学習も行う。						
授業の一般目標	ブライダル・ホテル業界を調べる事によって業界内の様々な職種を知る。 欲を高める。	。また、そこで求めら	れる人物像、知識	などを各自が明確にイ	メージすることによって学習						
受講条件	出席率80%以上が前提となる。										
事前学習について (テキスト・参考書等)	就活ナビノート										
授業の到達目標											
□ 知識・理解の観点	ブライダル・ホテル業界とは何かについて説明できる。 2. ブライダル	レ業界の各領域の概	既要と課題を説明で	きる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げたブライダル・ホテル関連企業ついて自分の意見を論理	的に述べることがて	<b>きる</b> 。								
□ 関心・意欲の観点	ブライダル・ホテルに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることが	ができる。									
□態度の観点	日常生活の中でブライダル・ホテル業界について主体的に考えることが	できる									
□ 技能・表現の観点											
授業計画(全体)	I.										

# 基本的な知識を修得し応用に発展する

### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ガイダンス	授業の必要性・概要・目的・目標について説明、教員・学生自己紹介	
第2回	ブライダル・ホテル業界の現状と将来展望	ブライダル・ホテル業界の現状と将来展望 関連職種	
第3回	ゲストハウス・ホテルウェディングの違い	ゲストハウス・ホテル 各施設でのウェディングをイメージし自分の将来像を考える	
第4回	ブライダル・ホテル企業の特徴①	ブライダル・ホテル企業について調べる	
第5回	ブライダル・ホテル企業の特徴②	自分の将来と就職について	
第6回	企業研究②	自分の興味のある職種・企業について	
第7回	企業研究②	自分の興味のある職種・企業について	
第8回	施設視察②	施設調整中 各セクションの役割や施設について学ぶ	
第9回	施設視察④ 振り返り	施設見学の振り返りを行う	
第10回	施設視察③	施設調整中 各セクションの役割や施設について学ぶ	
第11回	施設視察④ 振り返り	施設見学の振り返りを行う	
第12回	インターンシップについて	インターンシップ先での働き方やマナーについて	
第13回	インターンシップ先の企業研究	インターンシップ先を各自で企業研究を行う	
第14回	まとめとインターンに向けての心構え	これまでのまとめとその業界に求められる人物像などについてディスカッションを行う	
第15回	まとめとインターンに向けての心構え	インターシップの事前学習、お礼状や履歴書の準備など	

### 成績評価方法

単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点(レポート・小テスト)70%、授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。

		知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								評価なし	S(4):90点以上
小テスト		0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レ	ポート	0	0	0	0			40	B(2):70点以上
授業態度				0	0			20	C(1):60点以上
発表・作品			0	0				10	D:59点未満 未修得
演習								評価なし	
出席			0		欠格条件				
担当教員		國定	· 村瀬		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/			.jp/voice/kunisada/

科目名	キャリアデザイン	単位数	1	科目コード						
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期					
区分	選択	選択 開設時期 後期 教員実務経験対象 -								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各自の就職活動が円滑に進むよう、担当教員がアドバイスなどを適宜行	テう。エントリーをし <i>た</i>	企業への履歴書の	D記入や自己PRなどを	具体的に指導する					
授業の一般目標	就職先企業が決まった後も今後仕事が長く出来るように自己研鑽をおこなう。									
受講条件	出席率80%以上が前提となる。	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)										
授業の到達目標										
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	₹ <b>る</b>								
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる								
□ 関心・意欲の観点	就職に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる									
□態度の観点	日常生活の中で社会人について主体的に考えることができる									
□ 技能・表現の観点										

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

### 授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	キャリアデザインについて	自己紹介・シラバス説明・就職活動について・キャリアマップ登録・就職希望調査	
第2回	就職活動企業様によるガイダンス	マイナビ2022登録・活用術、2022就職活動について	
第3回	就職活動企業様によるガイダンス 職務適性テスト	自己分析の実施:特性分析・性格の特徴・情緒傾向・職務適性・テスト信頼度・自分を伸ばす 為のアドバイス の6つの項目から診断	
第4回	自己理解Ⅰ	過去を振り返り現在の自分を知る。ネガポジマップと自己PRマップの作成	
第5回	職務適性テストフィードバック	結果を基に自己及び他己評価を行い、自己PRを作る	
第6回	自己理解Ⅱ	グループワークにて「いいとこ探し」 自分自身の分析と他人から見た自分とのギャップを分析	
第7回	企業研究②	文章化の練習・エントリーシートを作成し提出	
第8回	就職活動企業様ガイダンス	生活設計・家計管理・保険について	
第9回	企業研究 I	企業研究の必要性について・企業研究方法・説明会での基本所作	
第10回	企業研究 Ⅱ	合同企業説明会参加企業の企業研究シート作成	
第11回	企業研究Ⅲ	企業研究発表(1人3分)・履歴書作成	
第12回	企業説明会に向けて	合同企業説明会にむけての最終確認(挨拶、所作、服装チェック) 尊敬語・丁寧語・謙譲語の学習	1月0日
第13回	模擬面接 I	企業説明会振り返り グループディスカッションDVD上映→解説→実践	
第14回	模擬面接Ⅱ	グループ面接について 個人面接DVD上映→解説→実践→動画撮影→振り返り	
第15回	模擬面接皿	模擬面接:評価→振り返り 今後の活動について	

### 成績評価方法

	知識·理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	0	0					10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			20	B(2):70点以上
授業態度			0				30	C(1):60点以上
発表·作品	0		0				40	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術 I	単位数	2	科目コード					
1404		<b>平位数</b>	2	1400 1					
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	1				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)									
授業の一般目標	授業の一般目標 Word・PowerPoint他アプリを使用しながら伝わるデザインを模索し完成させ伝えることができるようになること。								
受講条件	出席率80%以上が前提となる。								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	学んだ事を説明でき領域の概要と課題を説明できる								
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる							
□ 関心・意欲の観点	伝える事の意味に関心を広げ、問題意識を高めることができる								
□ 態度の観点	日常生活の中で伝える事について主体的に考えることができる								
□ 技能・表現の観点	プロ目線の思考と表現ができる								
授業計画(全体)									

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

# 授業計画(授業単位)

0	主 題	授 集 内 容	備考
第1週	授業開始について コンピュータの基本操作とWordの基本	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ログイン、メールアドレス登録、課題提出の仕方 Wordの画面構成と文字入力	
第2週	ビジネス文書の作成	ビジネス文書・メールの基礎知識 ページ設定、文字修飾について	
第3週	文書の作成	挨拶文の挿入、段落番号、インデントやタブについて	
第4週	表の作成	表を挿入し、編集する	
第5週	表の編集	表の体裁を整える	
第6週	オブジェクトや表の挿入・編集	画像や図形・図表、表の挿入と編集	
第7週	企業研究②	ワードアートや画像などの挿入・編集	
第8週	表現カアップ	図形、テキストボックスの作成・編集	
第9週	表現カアップ	SmartArtグラフィック、ページ罫線の挿入・編集	
第10週	総合演習問題	総合演習問題作成	
第11週	Word試験実施	テーマに元ずくデータの作成	
第12週	Word試験実施	基礎問題試験の実施	1月0日
第13週	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説	
第14週	プレゼンテーションの基本概念	プレゼンテーションについて 試験対策のポイント、確認	
第15週	プレゼンテーション効果設定	画面の切り替え効果やアニメーション効果	

### 成績評価方法

	知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術 II	単位数	2	科目コード						
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期					
区分	必修	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	デジタルを利用することでルーチンワークの軽減を体験する。 また、インターネット・ホームページ・パソコンなどの広範囲のデジタルの	基礎知識を習得する	ó							
授業の一般目標	Excelを使用しながら省く!をテーマにデータ完成させることができるようになること。 またホームページの更新作業においての基礎r知識を得る。									
受講条件	出席率80%以上が前提となる。									
事前学習について (テキスト・参考書等)										
授業の到達目標										
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	きる								
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる								
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる									
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる									
□ 技能・表現の観点										

基本的な知識を修得し応用実践に発展する。

# 授業計画(授業単位)

		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
П	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	後期授業開始について プレゼンテーションの作成	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 プレゼンテーションの作成	
第2回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの作成	
第3回	プレゼンテーションの実施	プレゼンテーションの実施	
第4回	動画作成	動画の作成	
第5回	エクセルの基礎	エクセルの基本操作と簡単な表の作成	
第6回	エクセルの基本	表の作成、演算子や数式について	
第7回	企業研究②	割合計算と関数の利用	
第8回	数式の利用	関数の理解、オートSUMボタンを利用した関数の利用	
第9回	参照方法の概念	絶対参照と相対参照、関数の挿入ボタンを利用した関数について	
第10回	グラフ	グラフの作成・編集	
第11回	表の編集	表の作成、演算子や数式について	
第12回	グラフと図形の作成	各部挿入オブジェクトの操作	
第13回	関数について	関数の引数との基本概念	
第14回	関数について	関数を用いた応用操作	
第15回	試験実施	試験の実施	

# 成績評価方法

	ı							
	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名			基本『	T技術皿		単位数	2	科目コード		
授業形態			9	€習		対象学生	2年生	開設期	半期	
区分			ų	必修		開設時期	後期	教員実務経験対	象 -	
授業概要 (目的、目標とする	5資格・検定等)			ンワークの軽減を体 ジ・パソコンなどの広	、験する。 、範囲のデジタルの	基礎知識を習得する	ı			
授業の一般目	目標			-マにデータ完成させ おいての基礎r知識?	せることができるよう! を得る。	こなること。				
受講条件		出席率80%以	し上が前提となる。							
事前学習にて (テキスト・参										
授業の到達目	目標	1								
□ 知識·理解	双の観点 の	1. 学んだ事を	説明できる。	2. 学んだ領域の概	要と課題を説明でき	<b>ర</b>				
□ 思考·判断	<b>折の観点</b>	授業で取り上り	げた各領域につい	て自分の意見を論理	里的に述べることがで	<b>できる</b>				
□ 関心・意欲	次の観点	接遇に関する	関心を広げ、問題だ	意識を高めることが <sup>-</sup>	できる					
□態度の観		日常生活の中	で接遇について主	体的に考えることが	<b>べきる</b>					
□ 技能・表現										
	哉を修得し応用実	践に発展する。								
受業計画(授	(業単位)									
<u> </u>		主題				授業内容			備考	
第1回	情報リテラシー	青報リテラシー① ガイダンス 情報				ターネットの基礎知識	哉			
第2回	Web構築概論①	)		Webページの概要	<u> </u>					
第3回	Webページ製作の基本①			Webページの構成	要素					
第4回	Webページ製作の基本② HTMLとCSSの				割					
第5回	Webページ製作の基本③ HTMLの基礎				の種類 要素の構造	:				
第6回	Webページ製作	の基本④		CSSの基礎 プロ	パティの種類 セレク	7ターの種類				
第7回	企業研究②			余白設定の概念						
第8回	Webページ製作	の基本⑥		横並びレイアウトを	びレイアウトおよびカラムレイアウトの作成法					
第9回	Webページ製作	の基本⑦		リンクの作成 内部リンクと外部リンク リンクの属性						
第10回	Webページ製作	の基本⑧		表の作成						
第11回	Webページ製作	の基本⑨		ラスターの編集 西	: 配置 画像のサイズ変更 画像のトリミング					
第12回	Webページ製作	の基本⑩		ベクター編集 ロコ	ゴマークの作成及び	SVGの取り扱いにつ	いて。			
第13回	試験課題作成①	D		Webページ作成実	習					
第14回	試験課題作成②	2)		Webページ作成実	習					
第15回	試験課題作成	3)		Webページ作成実	:習					
	《合成績60点、出	席率80%以上 態度点20%、出席点	10%を換管して終	<b>父会評価を行う</b>						
	·	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能•表現	その他	評価割合	成績評価基準	
定期試験		0	0					50	S(4):90点以上	
小テスト	© O ©			0				30	A(3):80点以上	
<b>宮題授業外</b> し	外レポート ◎ ○				0			10	B(2):70点以上	
受業態度	0						10	C(1):60点以上		
発表·作品								評価なし	D:59点未満 未修得	
		1						== t== t		
寅習								評価なし		

科目名	ソーシャルメディア	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	デジタルを利用することでルーチンワークの軽減を体験する。 また、インターネット・ホームページ・パソコンなどの広範囲のデジタルの基礎知識を習得する							
授業の一般目標	SNSの運用方法についての知識を深める							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明でき	る						
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることが	できる						
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
□技能・表現の観点								
授業計画(全体)	-							

# 授業計画(授業単位)

<b>I</b>	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	これからWeb制作に携わる人が知っておくべき知識	HTMLを学ぶ前に知っておきたい基礎知識	
第2回	HTMLの基礎知識	HTMLを理解する	
第3回	HTMLの基礎知識	HTMLを理解する	
第4回	Webページを飾る: CSS	CSSの基本	
第5回	Webページを飾る: CSS	CSSの基本	
第6回	Webページを動かす:Web技術	サーバーサイドスクリプトとクライアントサイドスクリプト	
第7回	企業研究②	サーバーサイドスクリプトとクライアントサイドスクリプト	
第8回	Webサーバーの基礎知識	Webサーバーの役割と種類	
第9回	知らないと怖いセキュリティの話	インターネットに潜む脅威を知る	
第10回	総合演習問題	テーマに沿ったWebページの作成	
第11回	総合演習問題	テーマに沿ったWebページの作成	
第12回	総合演習問題	テーマに沿ったWebページの作成	1月0日
第13回	総合演習問題	テーマに沿ったWebページの作成	
第14回	総合演習問題	テーマに沿ったWebページの作成	
第15回	定期試験		

### 成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					50	S(4):90点以上
小テスト	0	0	0				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		0	0	0			10	B(2):70点以上
授業態度			0				10	C(1):60点以上
発表·作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名			論理的思	考力基礎		単位数	1	科目コード	
授業形態				義		対象学生	2年生	開設期	半期
区分				·····································		開設時期	後期	教員実務経験対	
授業概要 (目的、目標とする	る資格・検定等)	一般にビジネス	する題材を取 り上 ス、つまり仕事にお	げ、論理的な思考力 けるコミュニケーショ	ョン能力とは論理的:	考察を行える。小学	交の算数程度の2 報の収集、整理・	カだけで楽しみなが 統合、思考そして発	
授業の一般目	標	る。『数学』と『 自然や日常に	読解力・表現力』は ひそむ様々な問題	教育の指標としてはを、算数・数学が こ	は同じカテゴリーにタ の世界・社会で果た	}類される。つまり、	『数学』はまさに『『 つけ、理解する能	ことばの力』を習得す 力を身につける。さ	な、論理的思考力・表現力を る学問であるとの認識を前打 るに、現実に社会生活を送る
受講条件		特になし							
事前学習につ (テキスト・参え		なし							
授業の到達目									
□ 知識·理解				要性と内容説明が					
□ 思考·判断				いて自分の意見を記					
□ 関心·意欲				・ション能力や理解す					
□態度の観点		1. 日常生活 <i>σ</i> .	中で倫理的な思え	き力について、主体的	的に考えることがで	きる。			
□技能・表現									
授業計画(全体	本)								
社会に適応す	るのに必要な(社	と会が要求する)能	力を身につけ、数学	を通し読解力と表現	見力を身に付ける				
授業計画(授業	業単位)	主題				授業内容			備考
						IX X PI E			Wes 473
第1回									
第2回									
第3回									
第4回									
第5回									
第6回									
第7回	企業研究②								
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									1月0日
第13回									試験範囲説明
第14回									単位認定試験
第15回									試験解説
<b></b> 成績評価方法	<del>.</del>								·
単位認定 参	加型の授業で単位	立を認定する。期末	試験は行わない。	80%以上の出席が	前提。				
		知識・理解	思考・判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
と期試験		©	0					50	秀 (S):100点~90点
トテスト		-						-	優 (A):89点~80点
<b>宮題授業外レ</b>	ポート		0	0				20	良 (B):79点~70点
受業態度				0	0			20	可 (D):69点~60点
発表·作品								-	不可(E):59点以下
演習				_				-	
出席				0				10	
担当教員					実務経験紹介				

	10-1							
科目名	ボランティア活動 I	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義・実習	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	選択	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおして、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更(施設との調整などにより)が行われることもある。 ・ボランティア活動にもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える ・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動 を通じたスキルや知識を覚える ・主体的にボランティアに参加することができる人材になる							
授業の一般目標	・ボランティア活動の基礎を覚え、ボランティア活動に対するイメージを広げる ・ボランティア活動の歴史を知り、現在求められているボランティア活動意義や社会的役割を身につける ・NPOやコミュニティ・ビジネスなど新たな非営利団体の概要を覚える ・身近な関連を解決するボランティア活動について、自らデザインできるようになる ・ボランティアを実際に体験することで、コミュニケーションと共感の大切さを学ぶ							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	ボランティア活動の価値や意義、役割の説明が出来る							
□ 思考・判断の観点	ボランティア活動の基礎や活動意義を述べる事ができる							
□ 関心・意欲の観点	ボランティア活動を通じ、自主的な行動が出来るようになり社会的役割を	身に着け社会人基礎	力を上げていく					
□ 態度の観点	ボランティア活動を通じ、コミュニケーション能力を上げ社会的役割を身に	着ける						
□ 技能・表現の観点								
运業計画( <b>今</b> 体)	•							

ボランティア活動の基礎知識を修得し、活動に参加し社会的役割を身につける事ができる

### 授業計画(授業単位)

	主 堰	授 業 内 容	備考
第1回	授業開始について 講義ガイダンス ボランティア活動とは	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ボランティアの理念(無償性、自主性、公益性) ボランティア活動の社会的意義	
第2回	ボランティアのタイプと 活動パターン	ボランティアはあらゆる分野に及んでいる。ボランティア活動の種類と内容、ボランティアのタイプ と活動パターン	
第3回	ボランティア活動における リスク管理	ボランティア活動の基本原則 ボランティア活動における自己責任・義務	
第4回	ボランティア活動 (外部講師)	実際のボランティア活動の説明・意義・参加について	
第5回	ボランティア活動についてグループディスカッション	実際のボランティア活動に参加するにあたっての、各人の役割・分担、その他事前準備	
第6回			
第7回	ボランティア活動への参加 6月21日(土) 骨髄パンク全国大会における道案内・受付	ボランティア体験(1)(こちらで調整したボランティア活動への参加)ボランティアの日程は、活動 団体によって決まるので時期がずれることがある	
第8回			
第9回			
第10回	ボランティア活動の 報告・検討会	ボランティア体験に基づく結果の報告、気づき、等を発表し全員で討議する	
第11回	ボランティア活動計画の作り方	自分が主体的にボランティア活動に参加するために活動計画をつくり、参加の申し込み等アレン ジする	
第12回			1月0日
第13回	ボランティア活動への参加	ボランティア体験(2)(自分で調整したボランティア活動への参加)	
第14回			
第15回	総括 ボランティア活動の展開	ボランティア成果検討・発表会、各人のボランティアについての考え方等を討議し、今後の展開に ついて話し合う	

## 成績評価方法

講義参加態度及びレポートを基に評価をする。活動実践もあるものは評価対象とする。 講義・グループセッション等参加態度等も加味して総合的な評価を行う。意欲的で積極的な参加が望ましい。 活動報告書の記載内容は、所定の用紙をあらかじめ配付するが、 (1)活動日時、場所、実働時間、 (2)活動内容(簡潔に)、(3)活動の自己評価(400字程度)の3項目からなる。

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		0	0				30	良 (B):79点~70点
授業態度			0	0			30	可 (D):69点~60点
発表·作品							-	不可(E):59点以下
演習	0			0			20	
出席			0	0			20	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ボランティア活動Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義·実習·演習	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	選択	開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ユニバーサル社会の実現のために高齢者、身体の不自由な人、または国籍やLGBTQなど多種多様の人たちに対して、分け隔てないおもてなし「ヒューマニティ "人間性尊重精神"」を持てるように接客・接遇の知識と技術を身につける。							
授業の一般目標	・お客様に合わせた接客と介助・サービスの実践力を身につける。 ・ホテルなどのユニバーサルサービスの対応について理解する。 ・ボランティアを実際に体験することで、コミュニケーションと共感の大切さを学ぶ。 ・ボランティア の基礎を覚え、ボランティア活動に対するイメージを広げる。							
受講条件	特になし	特になし						
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	相手の気持ちを理解できるようになる。							
□ 思考・判断の観点	相手の意思や想いを尊重できるようになる。							
□ 関心・意欲の観点	自主的な行動が出来るようになり社会的役割を身に着け社会	会人基礎力を上げ	げていく。					
□態度の観点	誰かが困ったときに、何かをしてあげようと行動できる。							
□ 技能・表現の観点	技能・表現の観点 ユニバーサル社会の実現を考え、自ら行動できるホスピタリティを学ぶ。							
超業計画(全体)								

ボランティア活動の基礎知識を修得し、活動に参加し社会的役割を身につけることができる。

### 授業計画(授業単位)

0	主 題	授業内容	開講日	備考
第1回	オリエンテーション ボランティア活動とは	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ボランティアの理念(無償性、自主性、公益性) ボランティア活動の社会的意義	2024/4/11	
第2回	外部講師による体験授業	ボランティア入門講座、車椅子体験(学内にて)	2024/4/18	京都市福祉ボランティアセ ンター 河村様
第3回	外部講師による授業	ユニバーサルサービスとは何かの基礎を学ぶ	2024/4/25	日本ホテルレストラン経営 研究所 大谷理事長
第4回	振り返り	外部講師の授業を受けて何を学んだかをグループで議論する	2024/5/9	
第5回	校外学習の事前学習	ユニバーサルサービスについての事前学習	2024/5/16	
第6回	校外学習(ホテル施設の見学)	グランヴィア様にてユニバーサル対応の施設見学	2024/5/23	
第7回	企業研究②	グランヴィア様にてユニバーサル対応の施設見学を受けての振り返り	2024/5/30	
第8回	校外学習(ボランティア活動への参加)	高齢者施設(デイサービスセンター)での交流会、介護体験	2024/6/6	6/5 (水) または6/12 (水) で調整中
第9回	校外学習(ボランティア活動への参加)	高齢者施設(デイサービスセンター)での交流会、介護体験	2024/6/13	6/5 (水) または6/12 (水) で調整中
第10回	振り返り・グループワーク	校外学習を体験しての振り返りを行い、自分たちに何ができるかについて話し合う	2024/6/20	
第11回	グループワーク	これまでの講義・校外学習を受けて自分たちに何ができるかについて話し合う	2024/6/27	
第12回	グループワーク	これまでの講義・校外学習を受けて自分たちに何ができるかについて話し合う	2024/7/4	
第13回	発表会リハーサル	発表会のリハーサルを行う	2024/7/11	
第14回	発表会	これまでの講義・校外学習を受けての発表をグループで行う	2024/7/18	
第15回	定期試験	定期試験を行う	2024/8/29	

# \_\_\_\_ 成績評価方法

講義参加態度及びレポートを基に評価をする。活動実践もあるものは評価対象とする。 講義・グループセッション等参加態度等も加味して総合的な評価を行う。意欲的で積極的な参加が望ましい。 活動報告書の記載内容は、所定の用紙をあらかじめ配布するが、(1)活動日時・場所・実働時間 (2)活動内容(簡潔に) (3)活動の自己評価(400字程度)の3項目からなる。

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀 (S):100点~90点
小テスト							評価なし	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		0	0				40	良 (B):79点~70点
授業態度			0	0			30	可 (D):69点~60点
発表・作品	0		0		0		20	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0	0			10	
担当教員 村瀬 孝				実務経験紹介				